

2025年度

「学生による授業評価アンケート」

報 告 書

立教大学

2026年 9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、
「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>



はじめに

総長 西原 廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は2004年度から運用が開始され、本年度でちょうど22年目となります。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2025年度も、教職員のみなさんのご尽力の結果、年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

2026年度は、RIKKYU Learning Style 第2ステージ構想に加えて、教学マネジメントの進化のための多角的な検討作業を進めています。その際に、この「学生による授業評価アンケート」からも多くの重要な論点が抽出されています。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目 次

はじめに

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について	1
1-1 目的	1
1-2 「報告書」作成の基本的な考え方	2
1-3 「所見票」について	3
1-4 実施科目の選定方針	4
1-5 回答結果の全学的な活用に向けて	5
2. 授業評価アンケートの実施概要	7
2-1 実施方式	7
2-2 設問項目	7
2-3 各学部等の科目選定方針	11
2-4 実施科目数	12
2-5 実施期間	12
2-6 回答者数	13
2-7 「所見票」の公開	13
2-8 任意実施科目	13
3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック	14
3-1 科目担当者	14
3-2 学部等	14
4. 学部等総評	19
4-1 文学部	20
4-2 経済学部	24
4-3 理学部	26
4-4 社会学部	30
4-5 法学部	35
4-6 経営学部	38
4-7 異文化コミュニケーション学部	41
4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	44
4-9 観光学部	46
4-10 コミュニティ福祉学部	49
4-11 現代心理学部	51
4-12 スポーツウエルネス学部	54
4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	57
4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	65
4-15 学校・社会教育講座	74
5. 2025年度のまとめと今後の展望	76
6. 2025年度集計データ（資料編）	78
6-1 回答者数・回答率	78
6-2 全学集計	79
6-3 学部等別設問項目別平均値・回答割合	87

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の1-1「目的」、1-2『報告書』作成の基本的な考え方、1-3「所見票について」では、2004年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の1-4「実施科目の選定方針」、1-5「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

1-1 目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002年7月10日に総長に提出された「全学FD検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要FD課題として次の3点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受けて、2002年12月18日付け文書「FDについて―学生による教育評価アンケートの2003年度実施に当たって―」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の2002年12月21日には早くも全学教務委員会FD専門部会の第1回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003年の秋に2004年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004年度4月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

- ① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。
- ② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。
- ③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。

- ⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
- ⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

1－2 「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければな

らない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が1－1で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、(1)すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、(2)その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、(3)統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、(4)全学的な総評をおこなう。最後に(5)学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで1－1のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているため、それらについてはこの報告書の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

1－3 「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この3つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*1。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

- ① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。
- ② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。
- ③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。
- ④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次のアンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*²。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*¹ 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.17 参照）。

*² 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋。*は追記）

1-4 実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことから明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲

して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006 年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007 年 1 月 25 日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009 年度の教育改革推進会議（2009 年 11 月 19 日）において、2010 年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

- ① 授業評価アンケートは毎年実施する。
- ② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3 年に一度とする。
- ③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下のとおりである。2010 年度は定められた基本方針に拠って実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

- ・ 2010、2013、2016、2019、2022、2025 年度：「1 教員 1 科目」
- ・ 2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020、2021、2023、2024 年度：「学部等の必要性に応じた選定」

授業評価アンケート実施対象科目は、2019 年度まで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020 年度秋学期から「立教時間」による Web 方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。さらに、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

なお、2025 年度の各学部等における科目選定方針については、「2－3 各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部提供しないことを前提としてきた。さらに、2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、履修登録者が 4 名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

1－5 回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、1－1 に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計結果を教員個人の授業改善や、学部等による FD の基礎資料として活用してきた。しかし、回答データを計量分析し、全学的な FD に活用するには至っていなかった。

そこで、2012 年度 10 月に発足した大学教育開発・支援センター教学 IR 部会では、2015 年度に 2013 年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ報

告し、共有した（詳細は、2015 年度報告書に掲載）。

上述の知見を踏まえて、2017 年度に行われた第 1 回「立教大学教育活動特別賞」の選定にあたっては、2016 年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、34 名の方々に賞を授与するとともに、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学の FD 活動としてシンポジウムを開催した。その後、「立教大学教育活動特別賞」は第 2 回の 2020 年度では 28 名、第 3 回の 2023 年度では 30 名の方々に賞を授与するとともに、全学の FD 活動として広く共有する機会としている。

そして、「学生による授業評価アンケート」の運営主体について、2020 年度からは、このような全学の FD 活動をより推し進めていくために全学教務委員会の下に組織されていた「学生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象とした FD・調査を担う大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行されることになった。これにより、同センターの TL (Teaching & Learning) 部会では、本報告書の作成や回答結果を活用した FD プログラムの企画を、教学 IR (Institutional Research) 部会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

2. 授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

2-1 実施方式

「立教時間」を用いた Web 方式にて実施した。

2-2 設問項目

全科目共通設問は、2024 年度の設問を踏襲し、すべて英語併記とした。

5 段階による評価方式の設問が 4、複数選択回答による設問が 3、数値入力による設問が 1、自由記述による設問が 3 の構成とした（p.8 参照）。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1 学部あたり最大で 6 設問を設定できるようにした。2025 年度は、経済学部（5 設問）、理学部（4 設問）、現代心理学部（2 設問）、全学共通カリキュラム運営センター（総合系科目 6 設問・言語系科目 6 設問）が学部等による設問項目を設定した（pp.9-10 参照）。

2025 年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

数値入力、複数選択の設問以外の選択肢は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない、の 5 件法となります。

(英文選択肢) 5. Strongly Agree 4. Agree 3. Neither Agree nor Disagree 2. Somewhat Disagree 1. Disagree

I 学生の学習姿勢 My participation in this course
I1 この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
II 教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
II1 各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
II2 教員の伝え方はわかりやすかった The instructor's way of communicating was easy to understand.
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料（授業のレジュメなど）、②板書（電子媒体のものを含む）、③パワーポイント、④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course? 【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II4 II3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 If there is any reason for the answers for II3 and other things you thought good about this course, please explain. 【Free writing】
II5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料（授業のレジュメなど）、②板書（電子媒体のものを含む）、③パワーポイント、④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that can improve this course? 【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II6 II5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 If there is any reason for the answers for II5 and other things that can be improved, please explain. 【Free writing】
III 学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following. 【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
III2 III1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III3 この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2025 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	（6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度）
文学部	無	
経済学部	有	1)（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた 2)（基礎ゼミナール 1）レジュメやレポート作成の力がついた 3)（データ分析入門 1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた 4)（データ分析入門 1）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた 5)（データ分析入門 1）WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた 1)（Pro-Seminar1）I gained the ability to read economic literature. 2)（Pro-Seminar1）I gained the ability to create resumes and reports. 3)（Introduction to Data Analysis 1）I have acquired the ability to utilize spreadsheet software（Excel）. 4)（Introduction to Data Analysis 1）I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point. 5)（Introduction to Data Analysis 1）I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.
理学部	有	1) シラバスに沿って授業が行われた 2) 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた 3)（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった 4)（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた 1) The instructor conducted lessons based on the syllabus. 2) The instructor was willing to answer my questions/inquiries. 3)（This question is for the compulsory subjects only.）We solved problems through group works（i.e., working out exercises together, etc.）during the lessons. 4)（This question is for the freshman's compulsory subjects only.）The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school's and university's.
社会学部	無	
法学部	無	
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	無	
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	

2025 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（2/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	（6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度）
現代心理学部	有	1) この授業の受講者数は適切だった 2) この授業の設備・環境に満足している 1) The number of the students in this class is appropriate. 2) The facilities and learning environments in this class are satisfactory.
スポーツ ウエルネス学部	無	
全学共通 カリキュラム 運営センター （総合）	有	1) この授業の教室の大きさは適切だった 2) この授業の受講者数は適切だった 3) この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く） 4) 【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 5) 【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 6) 【F 科目のみ対象】この授業を通して英語で学ぶことに対する意欲が向上した 1) The size of the classrooms was appropriate. 2) The number of students in this class was appropriate. 3) The environment and facilities in the classroom where this class was held were adequate (except in terms of size) . 4) [For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 5) [For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning. 6) [For Comprehensive Courses conducted in foreign languages] Through this class, my motivation to learn in English has improved.
全学共通 カリキュラム 運営センター （言語）	有	1) 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2) 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた 3) 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4) この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、 ⑤プレゼンテーションをする力、⑥ディスカッションをする力 5) その言語圏の社会や文化についての知見を得られた 6) その言語の学習を継続したいと思うようになった 1) The homework and assignments were useful for understanding course content. 2) Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3) Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4) What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5) I could gain insights into the society and culture of this linguistic community. 6) I feel like continuing to study this language.
学校・社会 教育講座	無	

2-3 各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における 2025 年度開講科目である。

2025 年度は、3 年に 1 度の「1 教員 1 科目」の原則で実施する年度であった。

各学部等の科目選定方針の詳細については、「4. 学部等総評」にて確認されたい。

※「1 教員 1 科目」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座ごとに 1 教員 1 科目と考える（他学部所属教員を含む）。

※「1 教員 1 科目」に加え、学部等の必要性に応じた科目を対象とすることも可能とした。

※「1 教員 1 科目」での実施を原則とするが、専門演習、実験、集中、実技を伴う科目、複数教員担当科目のみを担当する教員の場合には、「1 教員 1 科目」の原則の対象外。ただし、これらの科目をアンケート実施対象科目とすることは可能とした。

2-4 実施科目数

最少回答人数（5 名以上）の条件を満たした科目数を実施科目数とする。

（最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

実施科目数は、春学期 1,673 科目、秋学期 1,682 科目、合計 3,355 科目であった。

所見票提出率は 83.13%（2,789/3,355）となった。

科目開設学部等	実施 予定 科目数	実施学期内訳		実施 科目数 (回答者 5 名以上)	実施学期内訳		所見票 提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文 学 部	369	198	171	277	161	116	216	129	87
経 済 学 部	227	146	81	188	128	60	150	101	49
理 学 部	146	74	72	124	68	56	102	57	45
社 会 学 部	120	53	67	97	44	53	73	30	43
法 学 部	94	50	44	64	37	27	50	28	22
経 営 学 部	91	53	38	63	39	24	36	23	13
異文化コミュニケーション学部	138	71	67	109	60	49	82	47	35
グローバル・リサーチ・プログラム運営センター	43	23	20	25	14	11	13	11	2
観 光 学 部	108	58	50	93	50	43	71	39	32
コミュニティ福祉学部	114	66	48	99	59	40	74	47	27
現 代 心 理 学 部	76	28	48	64	26	38	49	22	27
スポーツウエルネス学部	50	27	23	41	25	16	34	20	14
全学共通キャリア運営センター ・総合系科目	440	239	201	373	216	157	285	168	117
全学共通キャリア運営センター ・言語系科目	2,105	868	1,237	1,679	712	967	1507	658	849
学校・社会教育講座	77	40	37	59	34	25	47	27	20
合 計	4,198	1,994	2,204	3,355	1,673	1,682	2,789	1,407	1,382

2-5 実施期間

原則として 13 回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は 14 回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時まで実施することとした。

春学期：2025 年 7 月 7 日（月）～7 月 13 日（日）

・（予備週）7 月 14 日（月）～7 月 20 日（日）

・学生が回答可能な期間は 7 月 7 日（月）～7 月 20 日（日）

秋学期：2025 年 12 月 20 日（土）～2026 年 1 月 14 日（水）

・（予備週）1 月 15 日（木）～1 月 21 日（水）

・学生が回答可能な期間は 12 月 20 日（土）～1 月 21 日（水）

なお、四半期科目については原則として 7 回目の授業時に実施し、学生が回答可能な期間はこの実施期間に加えて期間終了後の 1 週間延長することとした。

春学期 1：2025 年 5 月 26 日（月）～6 月 1 日（日）

・学生が回答可能な期間は 5 月 26 日（月）～6 月 8 日（日）

秋学期 1：2025 年 11 月 7 日（金）～11 月 13 日（木）

・学生が回答可能な期間は 11 月 7 日（金）～11 月 20 日（木）

2-6 回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、35.7%（〈B〉 80,057 / 〈A〉 223,978）であった。

※ 〈B〉 集計対象科目回答者数（回答者 5 名以上） / 〈A〉 集計対象科目履修者数（回答者 5 名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合 計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文 学 部	14,614	5,327	9,106	2,590	23,720	7,917
経 済 学 部	17,339	4,659	4,787	1,244	22,126	5,903
理 学 部	4,594	2,034	3,815	1,446	8,409	3,480
社 会 学 部	8,963	2,137	8,711	1,988	17,674	4,125
法 学 部	6,914	2,020	5,742	1,225	12,656	3,245
経 営 学 部	7,613	1,070	5,508	660	13,121	1,730
異文化コミュニケーション学部	2,658	1,222	1,988	934	4,646	2,156
グローバル・リサーチ・プログラム運営センター	328	182	287	135	615	317
観 光 学 部	9,269	2,819	6,329	1,601	15,598	4,420
コミュニティ福祉学部	6,399	2,675	3,765	1,225	10,164	3,900
現 代 心 理 学 部	3,341	1,009	5,027	843	8,368	1,852
スポーツウエルネス学部	2,893	1,356	1,270	618	4,163	1,974
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	24,492	8,357	20,125	5,020	44,617	13,377
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	14,785	10,872	20,846	13,692	35,631	24,564
学校・社会教育講座	1,371	656	1,099	441	2,470	1,097
合 計	125,573	46,395	98,405	33,662	223,978	80,057

2-7 「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID / パスワードが必要

<立教時間：所見票検索>（2020 年度以降の所見票）

教職員：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index>

学 生：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index>

※2019 年度以前の所見票の閲覧を希望する場合は、大学教育開発・支援センターにて個別に対応する

2-8 任意実施科目

大学教育開発・支援センターより「立教時間（RIKKYO Gmail）」を通じて、任意実施について案内を行い、春学期は 10 科目、秋学期は 7 科目実施した。

3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

3-1 科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施1~2ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した（p.15 にサンプル画面を掲載）。

- ・ 回答情報（自由記述回答含む）
- ・ 回答統計情報

3-2 学部等

以下により集計し、2)の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

1) 集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

- ①学部等別・学科等別に集計する。
- ②科目選定方針が「1 教員 1 科目」の本年度は、全学集計を行うほか、全学部等の設問項目別平均値・割合（学部等間比較）の一覧表を作成する。
全学集計は、以下の2種を作成する。
全学①：「全科目」を対象とした集計
全学②：「全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目*を除く全科目」を対象とした集計

*2020 年度からアンケート実施対象。そのため、2019 年度以前の「学部等ごとに 1 教員 1 科目」の年度の集計は②に該当する。

2) 集計内容

①回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した（合計も記載）。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率（回答者数/履修者数）を算出した（p.78 参照）。

②平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

集計単位 提供した 集計データ	全学①	全学②	学部等間比較	学部等別 *1	学科等別 *1
設問項目別	● (p.79 参照)	● (p.80 参照)	● (pp.81-82 参照)	● *2 (pp.87-101 参照)	●
授業規模別	● (p.83 参照)	● (p.84 参照)	—	●	—
学年別	● (p.85 参照)	● (p.86 参照)	—	●	—

*1 学部等には、当該学部の結果を提供

*2 学部等には、該当項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (1/2)

立教時間

立教太郎

Home / ※科目名が入る / 授業評価アンケート選択 / 授業評価アンケート入力・確認

授業評価アンケート結果確認・所見入力

授業評価アンケート結果確認・所見入力

戻るダウンロード

2025年度春学期「学生による授業評価アンケート」/Student Class Evaluation Survey for Academic Year 2025 Spring Semester

所見ステータス

未着手

教室情報

所見提出日

アンケート入力期間

所見入力期間

シラバスの参照

説明

このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。

The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う/Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う/Agree:20% (1)

3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない/Disagree:20% (1)

1-2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

⇒Fill in how many hours.

平均:3.0 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。

The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う/Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う/Agree:20% (1)

3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない/Disagree:20% (1)

2-2 教員の伝え方はわかりやすかった

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う/Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う/Agree:20% (1)

3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない/Disagree:20% (1)

2-3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】

2-3 Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】

配付資料(授業のレジュメなど)/Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (5)

黒板(電子媒体のものを含む)/Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (4)

サンプル ＜授業評価アンケート結果確認・所見入力画面＞（2/2）

	パワーポイント／PowerPoint (3) 動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (2) シラバス／Syllabus (1) 上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (0)
2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
2-5 この授業で改善すべき点とあった点がありますか【複数選択可】 2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]	配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (5) 板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (4) パワーポイント／PowerPoint (3) 動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (2) シラバス／Syllabus (1) 上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (0)
2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
3 学生が授業に期待するもの 3 Student's expectations of this course	
3-1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]	自分にとって新しい考え方・発想／New concepts and new ways of thinking (5) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識／Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4) 自分で調べ考える姿勢／A positive attitude towards doing my own research and analysis (3) 学問的興味／Academic content which was suitably challenging (2) 上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (1)
3-2 上記3-1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
3-3 この授業を受けて満足した 3-3 I was satisfied with this course.	5 大いにそう思う／Strongly Agree:20% (1) 4 そう思う／Agree:20% (1) 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20% (1) 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20% (1) 1 そう思わない／Disagree:20% (1)

ダウンロード

担当教員の所見

授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey	
改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future	

戻る

サンプル <所見票> (1/2)

立教時間

立教太郎

三

Home / 所見票検索 / 授業評価アンケート選択 / 所見票確認

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2025年度春学期「学生による授業評価アンケート」／Student Class Evaluation Survey for Academic Year 2025 Spring Semester

担当教員名	立教太郎
ステータス	確定
教室情報	
提出日	
アンケート入力期間	
シラバスの参照	クリックしてシラバスを表示
説明	このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。 The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:60%

4 そう思う／Agree:0%

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20%

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20%

1 そう思わない／Disagree:0%

1-2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

⇒Fill in how many hours.

平均：3.0 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。

The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:100%

4 そう思う／Agree:0%

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:0%

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:0%

1 そう思わない／Disagree:0%

2-2 教員の伝え方はわかりやすかった

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:100%

4 そう思う／Agree:0%

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:0%

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:0%

1 そう思わない／Disagree:0%

2-3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】

2-3 Is there anything that you thought good about this course? 【Multiple answers allowed】

配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4)

板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (0)

サンプル <所見票> (2/2)

	パワーポイント/PowerPoint (2) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (4) シラバス/Syllabus (0) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)
2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]	
2-5 この授業で改善すべき点とあった点がありますか【複数選択可】 2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]	配付資料 (授業のレジューメなど) /Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (0) 板書 (電子媒体のものを含む) /Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (0) パワーポイント/PowerPoint (0) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (0) シラバス/Syllabus (0) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (4)
2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]	
3 学生が授業に期待するもの 3 Student's expectations of this course	
3-1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]	自分にとって新しい考え方・発想/New concepts and new ways of thinking (3) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course (3) 自分で調べ考える姿勢/A positive attitude towards doing my own research and analysis (2) 学問的興味/Academic content which was suitably challenging (3) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)
3-2 上記3-1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]	
3-3 この授業を受けて満足した 3-3 I was satisfied with this course.	5 大いにそう思う/Strongly Agree:80% 4 そう思う/Agree:20% 3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:0% 2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:0% 1 そう思わない/Disagree:0%

担当教員の所見：立教太郎

授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey	※所見が表示されます
改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future	※所見が表示されます

戻る

4. 学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

<構成の基本形>

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

4-1 文学部

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度は、学部等ごとに 1 教員 1 科目実施することになっていた。

文学部では、1 年次の必修科目等の導入教育にあたる科目、文学部基幹科目、各学科・専修で必要とされる科目など、科目の特性を見渡しなが、各学科・専修ごとに対象科目を指定し、全体の状況を見据えなが選定した。

2024 年度と同じく学部による設問項目については設定せず、全科目共通設問に拠ってアンケートを行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

アンケートの対象科目数は全 369 科目（春学期：198、秋学期：171）、実施科目数は全 277 科目（春学期：161、秋学期 116）であった。対象科目の履修者数は 23,720 人、回答者数は 7,917 人で、回答率は 33.4%であった。回答率の全体平均 35.7%をやや下回っているものの、昨年度の回答率（33.8%）とほとんど変動はない。近年の回答率の推移を見ると、2021 年度：31.8%、2022 年度：31.3%、2023 年度：34.5%、2024 年度：33.8%となっており、同じ水準で推移している。

もちろん、3 割強という回答率は数値として低いと判断せざるをえない。ただ、他学部と比較してみると、文学部同様に履修者数の合計が一万を超え、かつ回答者数が数千名に上る学部は回答率が低い（参考：社会学部：23.3%、経営学部：13.2%）。こうした傾向の理由としては、少人数の演習系科目と違い、大教室での講義系科目においては不特定多数の学生に回答を強いることが難しいためと推測できる。これは回答率向上の案を今後考えるうえで留意すべきポイントである。

学年別の回答者数を見ると、1 年生 2,151 名、2 年生 2,614 名、3 年生 2,082 名、4 年生 1,015 名、その他が 55 名であった。初年次教育科目、基幹科目を中心にアンケート対象科目を選定した文学部の狙いに沿った回答者分布になっている。

I 「学生の学習姿勢」

文学部の平均値は、「I1 この授業に積極的に参加した」が 4.38、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間」が 1.44 となった。いずれも昨年度の数値（I1：4.34、I2：1.40）から微増している。内訳を見ると、後者に関しては「1 時間」がもっとも多く、次に多かったのが「0 時間」であり、授業外の学習時間の少なさが気付きである。文学部では、演習系科目に比べて予習時間が少ないであろう講義系科目も多く展開されている事情も、この数字に関係していると考えられる。いずれにせよ、学生の授業外の学習を促すことが課題であることがこの数字からわかる。

II 「教員の授業改善に向けて」

文学部の平均値は、「II1 各回の授業内容は明確だった」が 4.43、「II2 教員の伝え方はわかりやすかった」が 4.34 となった。いずれも昨年度の数値（II1：4.39、II2：4.30）から微増している。授業内容や方法に関する評価点を「II3 この授業でよいと思った点がありますか」（複数選択可）で見ると、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 58.8%、「パワ

ーポイント」が 32.2%、「動画等の映像視覚教材」が 21.0%となっており、ここ数年の傾向・数値とほとんど変わらない。これらの数字から、授業での配付資料、投影するパワーポイントの質が学生にとって主たる評価基準となっていることが明らかであり、教員はこの点を意識して授業準備を考える必要があるだろう。

なお、昨年度同様、「シラバス」に関する数値は選択肢中、最も低い(5.6%)。「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか」(複数選択可)でも「シラバス」の数値は 1.9%と最も低く、シラバスに関する数値の低さが際立っている。以上から、学生がシラバスの内容に細かく注意を向けていないという可能性を読みとることができ、各教員はシラバスの内容を所与のものとするのではなく、学期開始の時点で授業のルールや目的などを丁寧に学生に説明することが求められる。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか」(複数選択可)に関しては、例年通り「①自分にとって新しい考え方・発想」および「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が高く(それぞれ 55.0%、63.5%)、導入教育科目や基幹科目の狙いに沿った結果であるといえる。「③自分で調べ考える姿勢」は今年度は 26.3%となっており、2022 年度以来、ここ数年の傾向・数値とほとんど変わらない(2022 年度：25.1%、2023 年度：26.5%、2024 年度：27.6%)。「④学問的興味」については 46.5%となっており(2022 年度：49.2%、2023 年度：45.7%、2024 年度：45.4%)、昨年度より改善傾向が見られるものの、2022 年度に比べると見劣りするのが気かりである。一方、授業の満足度は全体が 4.42 と、2022 年度の 4.37、2023 年度の 4.36、2024 年度の 4.40 と同水準であり、全体として質の高い授業を提供できていると総括できる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの肯定的な意見として多く取り上げられているものとして、まずは授業内容の質・教え方の丁寧さが多く挙げられていることは安心できるものであると思われる。とくに、レジュメや配付資料、パワーポイント、動画資料の充実度や丁寧な対応について高い評価が目立つ。また、Canvas LMS 等で講義終了後も閲覧、ダウンロードが可能にし、講義内容を復習できる環境が提供されていることが、昨年度に引き続き、高い評価につながっていると考えられる。さらに、リアクションペーパーの内容の共有、教員による応答に対する学生の高い評価も目立つ。演習系科目はもちろんのこと、大人数講義においても授業の双方向性を担保することの重要性がここから浮き彫りになる。

学生からの否定的な評価・意見として目に付くのは、まさに上記の肯定的評価の裏返しであり、配付資料・掲示資料の読みづらさ、特にパワーポイントの文字数が多いといった不満の声が目立つ。また、リアクションペーパーへのフィードバックがないことに対する不満も挙げられる。大人数の講義系科目であっても、学生の側は何かしらの双方向性を求めていることが見てとれる。このほか、オンライン授業では、Zoom の待機室での承認待ちや履修学生のミュートの消し忘れ等の不具合に対する不満が複数あった。さらに、シラバスに記載された事項との齟齬を指摘する声もあった。

授業担当者の所見では、授業中に投影するパワーポイントを配付してほしいとの希望に対し、授業中に集中してメモを取ることの重要性を訴える所見も複数あった。また、授業中に説明した授業方針に対して学生が不満を漏らしている例が複数あり、教員の側でこれ以上は如何ともしがたいとする反応も見られた。また、教室環境についての不満の声（定員ぎりぎりの履修者がいる等）もあった。以上のように、各教員が授業で目指す教育効果と学生側の要望の齟齬が見受けられる。上述の Zoom を利用したオンライン授業についても、同時に授業を進める授業担当者には、配信環境について配慮するには限界がある。教室逼迫問題を受けてオンライン授業が継続的に維持されるなか、TA の活用ないしメディアセンター等のサポートをはじめとする制度的な補助の必要性が感じられる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

どの教員もアンケートの内容を真摯に受け止めて、具体的な改善の方針を示している。ただし、学生からの意見のなかには授業改善に直接つながるものもあれば、個人的な不満感に基づくように思われるものもあり、学生の要望をそのまま聞いて反映すればよいものではないこともある。上記のとおり、授業内容そのものには肯定的な評価をしている学生が多いことから、授業手法について改善すべきところは改善しつつも、授業の質の維持も同時に望まれるため、教員の側が学生に対してどのような指針で授業運営をしているのか、丁寧に説明をすることが望ましい。授業の狙いと目的を学生に向けてより明確に説明することが、結果的に学生の満足度向上と授業改善につながると思われる。

4. 今後の改善に向けて

数年来の懸案事項である回答率の低さについては、引き続き検討が必要である。個々の教員も授業時間内で回答時間を設けるなど工夫をしているが、履修者数が 100 名を超える大人数講義は回答率が低くなる傾向が顕著である。このことから、特に大人数の講義で回答率をどう上げるかということが今後の中心的な課題になるであろう。一つの対策として、授業中にアンケートを答える時間を必ず設けるといった工夫が考えられる。また、兼任講師の方々に本学におけるアンケートの重要性を認識してもらうことも重要である。

学生側の要求と教員側の教育目標の乖離についても、今後是对応が必要であろう。先述のとおり、各教員はシラバスの内容を学生に理解されていることを前提にするのではなく、学期開始の時点で授業のルールや目的などを丁寧に学生に説明することによってこの齟齬はある程度は解消されると期待できる。

また、オンライン授業については、今後もその設置が継続して見込まれる。先述のようにオンライン授業環境については多くの問題点が学生から指摘されているが、その多くは教員の指導方法によるものというよりは技術的なもののように思われる。担当教員のみによる対策ではなく、全般的なサポート体制が必要であると思われる。

また、2024 年度の総評において、「学生の主体的に学ぶ姿勢を引き出す授業づくりを目指した、各教員の授業改善」および「学生の授業外の学習時間の少なさ」が今後の課題として提示されていた。今回のアンケートの中で、この課題に対しての工夫と改善策として目立ったものを挙げると、(1) リアクションペーパーに対するフィードバックを与えた、(2) Canvas LMS の「ディスカッション」機能を活用した、(3) 授業資料（パワーポイントなど）

を事前ないし事後に学生と共有した、といったものがある。いずれも授業外の予習・復習に資するもので、学生の学習意欲を活性化することに寄与したようなので、次年度以降も同様の対応を継続することが望ましい。

4-2 経済学部

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度の選定方針は以下の通りである。

- (1) 1 教員 1 科目を原則に主要担当科目の春学期科目で実施する。なお通年科目の場合は、秋学期に実施する。
- (2) 1 教員 1 科目（主要担当科目）を原則とするが、必修科目等を担当する専任教員は、複数科目で実施する。ただし、兼任講師が必修科目を含む複数科目を担当する場合は、必修科目のみの実施でよいこととする。
- (3) 必修・基本選択科目は全科目・全クラス実施する。
- (4) 基礎ゼミナール 1・2（春学期・秋学期）とデータ分析入門 1・2（春学期・秋学期）と統計学 1・2（春学期・秋学期）は全クラス実施する。
- (5) 外書講読・英 A（春学期）は全クラス実施する。
- (6) データ分析演習 A（春学期）は全クラス実施する。
- (7) キャリア教育関連科目である課題解決演習 A（秋学期）、課題解決演習 B（秋学期）、課題解決演習 C（春学期）、インターンシップ（通年）、キャリアデザイン論（春学期）及びキャリアコンサルティング論（秋学期）は実施する。
- (8) CSI 提供科目については、統計調査論 1（春学期）、調査実習（通年）で実施する。

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2025 年度のアンケート実施科目数は 188 科目、回答者は延べ 5,903 名となった。履修者数に対する回答率は 26.7%と全学平均（35.7%）を下回り、今回と同様に 1 教員 1 科目で実施した 2022 年度の学部回答率 28.1%よりもやや低下した。その要因として、学年別の回答者数が 2,839 名（1 年）、1,329 名（2 年）、1,136 名（3 年）、579 名（4 年）と、学年が上がるにつれて回答者数が減少し、履修者の学年別構成比を考慮しても「アンケート離れ」をしていることがあげられる。また、50 名以下の少人数科目において 10 名以下の回答者数にとどまっている科目が散見される。これらが、回答率の低下に結びついたと考えられる。

設問項目別平均値についてまとめる。「Ⅰ 学生の学習姿勢」、「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」では、「Ⅰ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」を除いて、全ての項目で 4.23～4.39 という高い数値となっている。学習時間については、平均値が 1.38 時間と、昨年度の 1.32 時間、および 1 教員 1 科目実施の 2022 年度の 1.34 時間を上回っている。標準偏差はやや大きいものの、各教員が授業以外の学習時間の確保に配慮していることがうかがえる。「Ⅳ 学部等による設問」においても、5 項目のうち 2 項目が 4.3 以上と非常に高い数値となっている。5 項目すべてにおいて 4.0 以上ではあるものの、「Ⅳ1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」については 4.03 と、相対的に低い数値となっており、標準偏差もⅣの他項目よりも大きくなっている。ここには改善の余地があると思われる（4. で後述）。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか

（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 59.7%と突出しており、「パワーポイント」が 32.8%と続いている。注目すべきは、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）」でも、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 17.1%と最も高い数値になっていることである。学生にとってレジュメを含む配付資料が非常に重要であることを示していることから、配付資料の作成・配付について担当教員は十分に留意する必要がある。なお、Ⅱ3 およびⅡ5 とともに、シラバスを選択した回答は 5%未満に過ぎない。このことは、シラバスの改善を示唆しているのか、それとも学生がシラバス自体に無関心なのかについては、今後注視していく必要がある。「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか（複数選択可）」では、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 67.9%と最も高い一方で、「自分で調べ考える姿勢」が 21.1%と低くなっており、自主的な学習の促進という点で改善の余地が残されている（4. で後述）。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見執筆科目比率は 79.8%と、全学の比率 83.1%をやや下回った。所見内容は各教員によって差異があるものの、概ね学生からの評価は高く、教員自身も手応えを感じていることがうかがえる。他方、回答サンプル数の少なさや、授業に積極的に参加した学生が回答したと見られることから、評価がどの程度現実を反映しているのか判断に迷っている教員も見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

ゼミナール以外の科目については、板書や配付資料、および発話における改善方針が中心である。いずれも学生からの要望に即したものであり、学生の可読性や筆記時間に配慮した方針が概ね共通している。昨年度は複数科目で見られた私語に関する対応方針は、今年度は見られなかった。昨年度と実施科目数が大幅に異なるため、改善の方向が見られているのかどうか、2026 年度に注視したい。ゼミナール科目については、学生の発言を促す点に関する改善方針が中心である。この点については、各教員の工夫案が示されているので、引き続き成果があがることを期待したい。

4. 今後の改善に向けて

2. で指摘した、「Ⅳ1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」が相対的に低い評価となっている点は、過年度から改善すべき課題として認識されてきたが、残念ながら今年度も改善には至らなかった。授業外の学習時間はわずかながら増加していることから、学生（とりわけ 1 年生）に対して、図書館の活用などをとおして授業外の時間に経済関連の文献を手取るように誘導する試みが引き続き必要と考えられる。

授業改善に関する課題や取組みを共有する場として、本学部では基礎ゼミナール担当者連絡会議、兼任講師懇談会、および FD 懇談会などを設けている。これらの場で、教員に対してだけでなく、ゼミナール担当教員などをとおして 3、4 年次の学生にも授業評価アンケートへの参加の重要性が伝わるように、更なる周知を図っていきたい。

4-3 理学部

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度の「1 教員 1 科目」という全学の科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（原則、複数教員担当科目を除く）、生命理学科は前年度と同じ科目を選定した。複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。共通教育科目は履修者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いた科目について実施した。理学部独自の設問についても例年通り行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は 41.4%で、全学平均の 35.7%より高いレベルであった。また、昨年度の回答率 40.6%、一昨年度の回答率 37.1%から増加傾向にある。学年ごとにおける回答者数（延べ人数）は、1 年生 1,695 名（2024 年度 1,440 名 2023 年度 1,360 名、2022 年度 1,149 名、2021 年度 912 名）、2 年生 1,043 名（2024 年度 912 名、2023 年度 738 名、2022 年度 636 名、2021 年度 761 名）、3 年生 609 名（2024 年度 562 名、2023 年度 461 名、2022 年度 657 名、2021 年度 404 名）、4 年生 111 名（2024 年度 87 名、2023 年度 93 名、2022 年度 127 名、2021 年度 50 名）、その他 22 名となっており、どの学年も徐々に増加している。学年が進むにつれて減少する傾向は例年と同様に見られる。

設問項目別平均値を見ていくと、「(Ⅰ2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」は 1.65 時間で、昨年度の 1.58 時間よりは増加しているものの、一昨年度の 1.85 時間、その前年度の 1.93 時間と比較すると下止まりの状態である。他の項目は、総じて前年度と比べ大きな変化は見られなかった。設問項目別回答の割合は、「(Ⅱ3) この授業でよいと思った点がありますか」、「(Ⅱ5) この授業で改善すべきだと思った点がありますか」、「(Ⅲ1) この授業から得ることができたものはありますか」の項目で前年度から大きな変動はない。それぞれ、「(Ⅱ3 ①) 配付資料（授業のレジュメなど）」、「(Ⅱ5 ⑥) 上記にあてはまるものがない」、「(Ⅲ1 ②) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 5 割以上と一番割合が大きかった。各設問の次点は「(Ⅱ3 ②) 板書（電子媒体のものを含む）」、「(Ⅱ5 ①) 配付資料（授業のレジュメなど）」、「(Ⅲ1 ①) 自分にとって新しい考え方・発想」だった。この結果も昨年度と同じである。

数学科では、質問項目のうち、「(Ⅱ1) 各回の授業内容は明確だった」、「(Ⅱ2) 教員の伝え方はわかりやすかった」、「(Ⅲ3) この授業を受けて満足した」、「(Ⅳ3)（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」、「(Ⅳ4)（1 年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」で、他学科に比べてポイントが高かった。数値に多少の変動はあるものの、この傾向は 2023 年度・2024 年度と同様であり、大きな変化はない。

物理学科では、どの項目も 4.0 を上回っており、授業は一定の水準が保たれているが、「(Ⅱ2) 教員の伝え方はわかりやすかった」は、ほか学科に比べてやや低めである。さらに「(Ⅳ4)（1 年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」も低めである。

化学科は、ほとんどの項目で 4.0 を上回っており、全体として授業は一定の水準で受け止められている。一方、学科間比較では、「(I2) 授業外学習時間」が理学部内で最も低く、2024 年度に指摘された傾向が継続している。また、「(IV3) 学生同士が共同して解決策をとった」、「(IV4) 高校までとの授業スタイルの違いを考慮した授業展開」も相対的に低い。「(Ⅲ1②) 基本的な専門知識」を得た割合は 78.2%と高く、専門教育の基盤形成には一定の成果が見られるが、自律的学習や学生間協働を促す授業設計の一層の工夫が求められる。

生命科学科では、アンケートの回答率は、増加傾向にある。また、設問項目別の平均値については、前年度と比較して大きな変動はみられなかった。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

(数学科)

アンケート回答数が少ないため、すべての受講者の評価が分からないが、アンケートに回答した学生の意見の範囲では、授業内容や質問対応について比較的高い評価を得ている。より具体的には、授業のレジュメなどの配付資料が学生から高く評価される傾向がある。他方、「配付資料を配ることは、授業の出席率の低下を招く可能性ある」ことを指摘する教員の意見もあった。

(物理学科)

実験科目では、実験レポートの書き方等はおおむね伝わったと思われる。演習科目では、複数教室での公平性を危惧する意見があったが、これは教員も十分注意している点である。また、時間が短く解ける問題数が限られることや、学生のレベルの違いもあり解説の詳細さ具合の調整の困難さがある。グループワークのような形式をとっている講義では、学生の評価が分かれるようである。また、講義科目では、学生から声の小ささや字が読みづらいなどのコメントもあった。授業の進展に十分ついてこれない学生や、意欲のない学生がいることも授業運営を難しくしている。講義ノートを新たに準備したり、ビジュアルエイドを多用している講義では学生から高い評価を得ている。

(化学科)

授業内容、説明の分かりやすさ、配付資料、板書・スライド等については、全体として肯定的な所見が多く寄せられた。穴埋め式レジュメ、演習、課題、授業内での実演、質問対応など、学生の理解を促す工夫が一定の効果を上げていると捉えられている。一方で、回答率が低い科目もあり、結果の解釈には留意が必要である。また、授業外学習時間の少なさや、自主的な復習・演習への取り組み不足を課題として挙げる所見が目立った。担当教員は、分かりやすい資料作成や授業運営の改善に努める一方で、学生には配付資料や参考書、練習問題等を活用した主体的な学習を期待している。

(生命理学科)

全体として、授業内容や配付資料について高い評価が得られている。一方で、アンケート回答数が低い科目もみられるため、回答率向上にむけた取り組みを継続していく必要がある。また、講義以外の学習時間が少ないと感じている教員も複数おり、学生の学習意欲や主体的な学習姿勢を高める工夫が求められる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

(数学科)

アンケートの回答率の低さは、以前から指摘されていた点である。この傾向は高学年になるほど顕著になり、2024 年度と比べて学科全体として改善は見られない。授業時間内でのアンケートへの回答時間を確保等、対策を徹底する必要がある。一方、仮にこのような対策を講じたとしても一定以上の効果は望めず、より高い回答率を得るために「紙媒体でのアンケート調査の必要性」を指摘する意見もあった。

(物理学科)

実験科目では、レポート提出方法をわかりやすく改善すること、演習科目では、講義の進み方との調整が必要である。また、学生の能力の違いによる進め方の改善のため、オフィスアワーの活用を奨励したい。レポート期限が短いという意見には、検討が必要である。グループワークを行う講義科目では、グループワークの価値を学生に伝える工夫をしたい。また、他の講義科目でも、高校と異なる大学での自主的な学びのスタイルを身につけられるように努めたい。講義科目で、声が小さい、進み方が速い、字が汚いなどの指摘には、学生の反応を見ながら改善したい。講義ノートは改版に努めたい。

(化学科)

2024 年度総評で課題として挙げたアンケート回答率の向上、スライド・配付資料の工夫、授業進度の調整、授業外学習への接続については、各担当教員が継続的に意識して授業改善に取り組んでいることがうかがえる。配付資料やスライド、板書、Canvas LMS、録画公開、オンデマンド教材等を活用し、学生の理解を助ける工夫は引き続き行われており、資料の見やすさ、説明の明確さ、授業内容の分かりやすさについては肯定的な評価が多い。一方で、講義の進度、特定分野の説明時間、式の導出や専門的内容の意味づけなどについては、さらに丁寧な説明やメリハリのある授業運営が必要であるとの認識も示されている。また、授業外学習時間の少なさや、自主的な復習・演習への取り組み不足は引き続き重要な課題であり、小テスト、演習問題、レポート課題、自主学習ノート、出席管理等を通じて学習習慣の定着を図る方針が示されている。今後も、学生の理解度と主体的学習を高める観点から、授業内容、課題量、資料提示方法、質問しやすい環境づくりを継続的に改善していく必要がある。

(生命理学科)

高い評価を得ている項目については、今後も継続して維持・充実を図る。また、一部では「授業の進行が速い」「資料がわかりづらい」といった指摘もあったため、改善可能な点については積極的に見直しを進めていく。さらに、学生に主体的な学習習慣をつけてもらうため、小テストの導入や補足資料の提供などについても、今後の検討課題としたい。

4. 今後の改善に向けて

昨年度の課題は、まとめると次の三つであった。

①学年が上がるにつれて、アンケートの回答率が低くなる傾向にあるので、授業評価アンケートの重要性を説明することで、アンケート回答率を高めていく。

②授業を進める速さについても指摘があるので、スライドや配付資料の一層の工夫とともに適切な速さを模索することが重要であろう。

③復習をはじめとした授業時間外の学習につながる工夫も、継続していきたい。

これらの課題に対し今年度は、①に対し、授業評価アンケートの説明を行い時間をとって実施することで、全体的に回答率は上がったものの、やはり、学年が上がるにつれて回答率が低いことは変わらなかった。②に対し、スライドの工夫や新しい講義ノートの配付、ビジュアルエイドの多用で評価は上がったようで、教員がアンケートを振り返り、講義準備や改善の努力、Canvas LMS の機能の活用の努力をしていることが伺える。しかし、学生からはさらなる改善が期待されている。また、講義が速いという指摘は相変わらずある。③に対し、復習としてレポートや課題を出して努力している。授業時間外の学習時間は増加傾向が見られるが、わずかである。

上記を踏まえて、今後の改善に向けて、次のようにまとめる。

①授業評価アンケートの重要性をさらに説明すること、授業時間内でのアンケートの時間の確保を徹底することで、特に高学年の学生のアンケート回答率を高める。

②授業は、新規に受け持つもの等があるので、それぞれ工夫して資料やスライド等の工夫を行い、適切な授業の速さを模索する。

③レポートは多過ぎず少な過ぎず適度な量にし、小テストの導入や補足資料の提供により、授業時間外の学習の時間を増やす工夫を行う。

4-4 社会学部

1. 科目選定方針とねらい

対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う

2012年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実を考慮すると、重要なものとなる。①については、2012年度からのカリキュラム改訂の趣旨を踏まえて、必修科目は全て実施するという方針を取っている。また、社会学部においては②を2007年度以降選定方針としており、2025年度についてもこれに準拠した。2025年度は2012年度カリキュラムを一部改訂したカリキュラムが開始される年度にあたり、実施による影響や効果を把握するためにも、授業評価アンケートは大きく参考となるものだろう。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 授業規模別

社会学部 97 科目の結果について、50 名以下を「S」、51～100 名を「M」、101～150 名を「L」、151 名以上を「LL」として比較する。各クラスの内訳は、S が 69 科目、M が 20 科目、L が 7 科目となっており、LL に相当する科目は 1 科目であったため、比較からは除外されている。一般的な傾向として、授業規模が大きくなるほど対象授業数が減るため、特に対象授業数の少ない L 以上クラスの平均値は、特定の授業の回答傾向に影響を受けている可能性も考慮する必要がある。例年、授業規模と評価の関係については、 $S > M > L > LL$ として、授業規模が小さいほど評価が高い傾向があるといわれており、以下ではその傾向を基準に結果を見ていく。

I「学生の学習姿勢」の I1「この授業に積極的に参加した」および I2 の「授業以外に学習した時間」については、 $L > S > M$ の順となり、クラス規模が中間である場合の自己評価が最も低くなる傾向があった。

II の「教員の授業改善に向けて」の II1「各回の授業内容は明確だった」II2「教員の伝え方はわかりやすかった」については、 $L > M > S$ となっており、授業規模が大きいほど評価が高い傾向が見られたが、S と M の差は非常に小さかった。II3「この授業でよいと思った点」については、全体の傾向として、「①配付資料（授業のレジュメなど）」「③パワーポイント」「④動画等の映像視覚教材」が多く選択されており、この項目に着目すると、③パワーポイントは $L > M > S$ となっており、授業規模が大きい場合に効果がある。①の配付資料は S で最も評価されているが、他クラスとの差は大きくない。④の視覚教材は M の平均値が最も低くなっている。II5「この授業で改善すべきだと思った点」については、全体として「①配付資料」についての選択が最も多く、例年同様の傾向を示している。全体の項目を通して M クラスについて他の授業規模よりも改善を指摘する割合が高くなっており、この規模としての特徴を検討する必要があるだろう。

III「学生が授業に期待するもの」のうち III1「この授業から得ることができたもの」はあり

ますか」については全体的に S クラスについて各項目の平均値が他よりも高くなる傾向が見られた。項目別では、例年「①自分にとって新しい考え方・発想」を選択する割合が特に高くなっているが、この項目のみ L クラスが最も高い割合を示している。

2-2 学年別

例年、学年別の延べ回答者数は、学年が上がるにつれて明白に減る傾向にあり、本年度も2年次と3年次の間で半減する形となっている。必修科目履修状況などにもよるところがあるが、複数の科目に回答することへの「慣れ」やそれにとまなう意欲の低減も関係する可能性がある。

項目別の傾向としては、I1の「この授業に積極的に参加した」の項目では3年次と4年次の平均が高い一方で、1年次が最も低い結果となっている。これまでは4年次の平均が最も低い傾向があり、就職活動の影響などが背景にあるといわれていたが、近年は就職活動においても学習内容が問われることがある一方で、就職活動が3年次へ早期化していることなどを合わせて、今後の傾向の変化が注目される。I2の「授業に関連した学習時間」の平均は例年と同じく1年次が最も高いが、2年次以降は同様の値に低下している。

II「教員の授業改善に向けて」のII1とII2各項目については、1年次の評価が最も低く、例年と同様の傾向を見せている。この傾向に加えてIII3「この授業を受けて満足した」では、4年次の平均値が最も高く、完成年度に向かうにしたがって授業の理解度と満足度が上昇していることは、評価できる点であるだろう。

II3「この授業でよいと思った点」では、1年次で「③パワーポイント」の割合が特に高く、「①配付資料」の選択も高い一方で、「④動画などの映像視覚教材」は最も低くなっている。この傾向も例年通りで、大学入学前の授業内容との比較が背景にあると考えられる。

II5の「この授業で改善すべきだと思った点」については、1年次での「①配付資料」と「②板書」で比較的多く選択されているが、「④動画などの映像視覚教材」については、1年次が最も少ない。II3と合わせて考えると、1年次は映像教材について慣れていないために、評価基準が定まらない傾向があるといえる。

III「学生が授業に期待するもの」については、1年次で「②基本的な専門知識」の割合が高い一方で、4年次では「③自分で調べ考える姿勢」の割合がもっとも高く、それぞれの学習段階での傾向が反映されている。

2-3 学科別

学科別では、I「学生の学習姿勢」、II「教員の授業改善に向けて」のII1とII2各項目およびIII3「この授業を受けて満足した」については平均の差がほとんど見られなかった。

これに対してII3「この授業でよいと思った点」については、学科別で割合の差が大きく、「①配付資料」と「②板書」では社会学科、「③パワーポイント」では現代文化学科、「④動画などの映像視覚教材」ではメディア社会学科がそれぞれ最も高い割合を示した。各学科での学習内容に対応した形で結果が表れているように見受けられる。同様の傾向の違いは例年見られているものでもある。逆にII5の「この授業で改善すべきだと思った点」については、「④動画などの映像視覚教材」の割合が社会学科でやや高かった以外は、学科別には大きな差は見られなかった。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」については、「②基本的な専門知識」について学科間の差が大きく、社会学科で最も高いのに対して、メディア社会学科では最も低く、各学科において、受講の前提となる理論的な知識の必要性の大きさが反映している可能性がある。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

担当教員の所見については、自由回答のため、テキストマイニングのソフトウェアを用いて、特に授業規模と関連して出てくる論点について対応分析を用いて傾向をまとめた。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

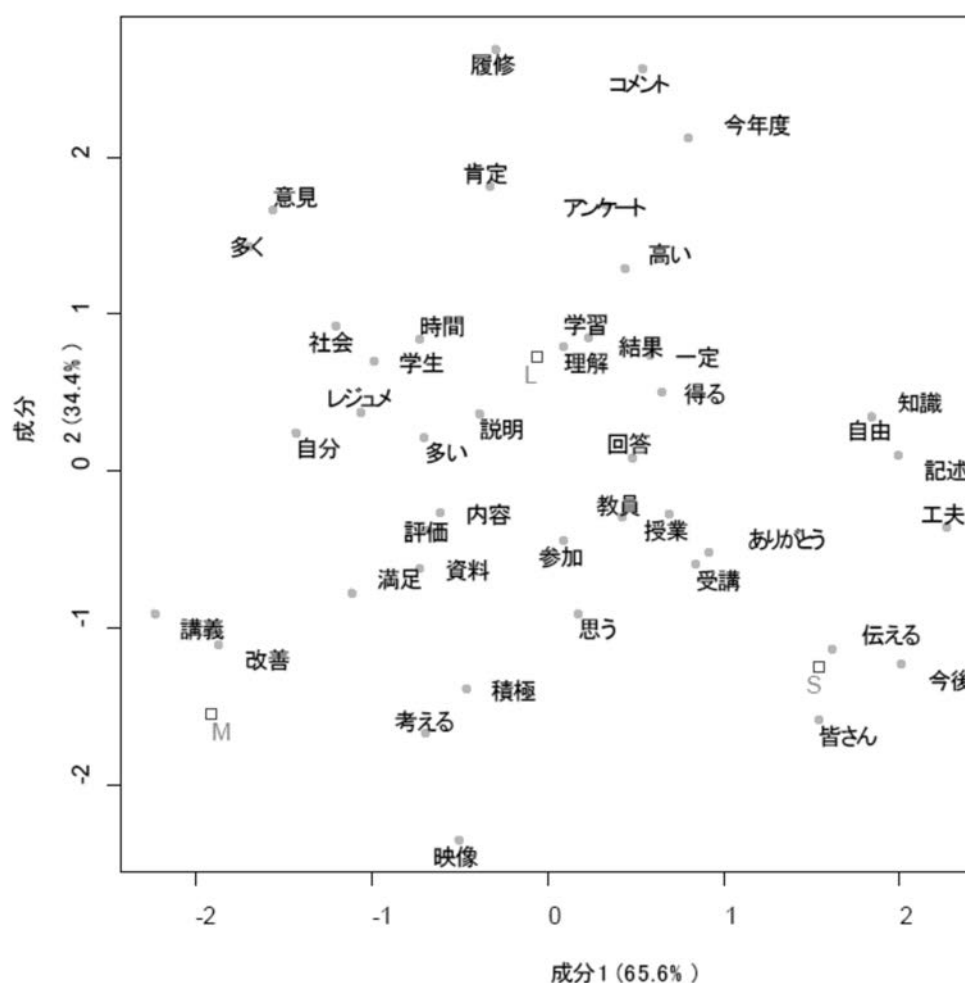


図1 担当教員の所見に多く見られた語と授業規模（SML）の関係

図1の結果から、Sクラスについては、「皆さん」といった形で受講者との関係や良好な態度についてポジティブな評価をする所見が見られた。Mクラスについては、他の授業規模よりも授業の改善を受講者が指摘する傾向があったことを反映しているのか、「改善」について言及する回答が多いという特徴が見られた。Lクラスについては、「理解」や「学習」に関する言及が多く、クラス規模が大きいだけに、履修者の学習効果に対して配慮するような回答が多くなっている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

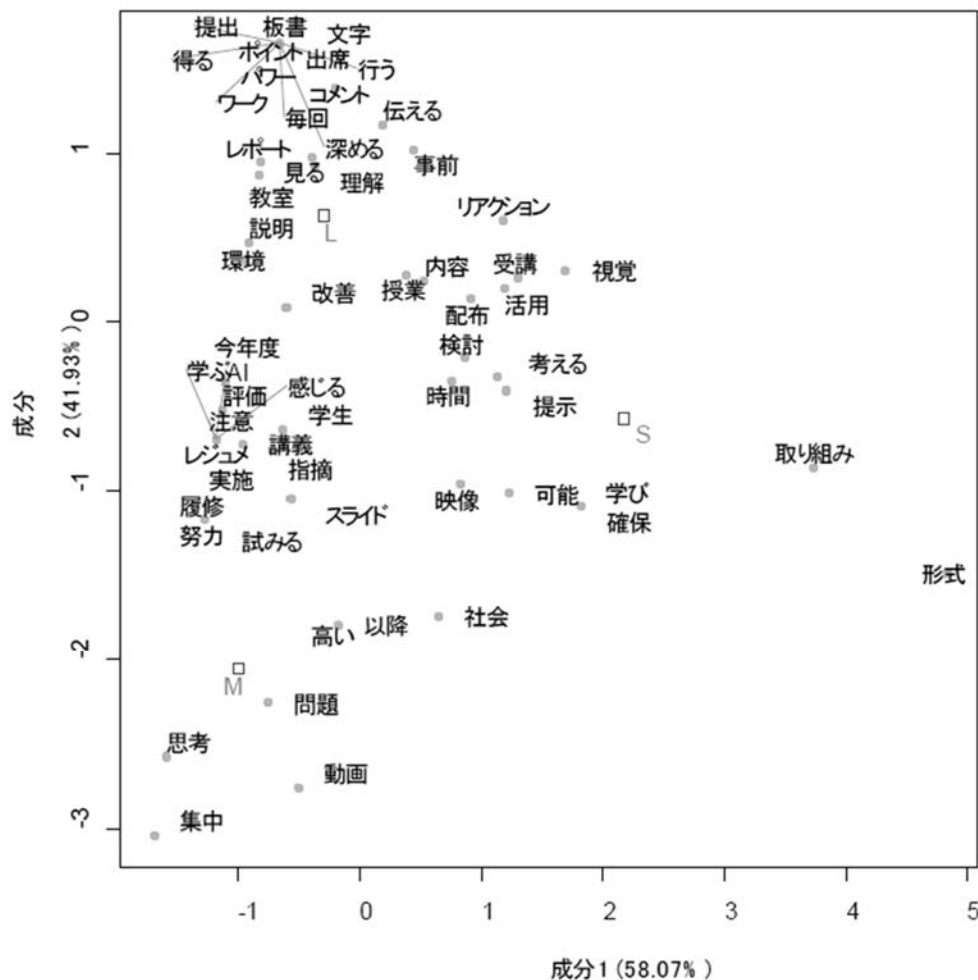


図2 改善に向けた今後の方針に多く見られた語と授業規模（SML）の関係

図2の結果からも示されているように、Sクラスについて、「学び」や「取り組み」などの具体的な学習過程と関係した改善点への言及が見られた。Mクラスについては、授業内容への「集中」に関する言及が見られるなど、授業環境についての改善が示されていた。Lクラスについては「理解」に関連した言及が見られ、大規模人数であることにより、学生間に理解の差やズレが生じないように配慮する姿勢がうかがわれた。

4. 今後の改善に向けて

前年度までに指摘された課題としては、オンライン授業の活用がある。社会学部でのオンライン授業の実施率は 25 年度で 3%と全学の中でも割合が低い、教学制度改革構想にともない、社会学の基本的な分析に関するツールの教示や、クラスごとに分かれている授業の合同実施などの改善案が出されており、今後の構想の展開にともない、具体的な実施に向けて検討がなされる予定である。

今回特に大きな変化が見られたのが学年別の傾向で、従来は大学生活への「慣れ」などから、後半の学年次において、学習意欲の低下が見られ、4年次ではさらに就職活動の影響も加わって、大学学習への消極性が問題となっていたが、今回の結果からは、学年が上がるほ

ど積極性が見られ、授業への期待も主体的な学びに置かれていた。この変化の背景を探ることにより、完成期に合わせた学習サポートの充実を検討する必要がある。

これに対して、1年次については、授業への評価基準が定まらない一方で、入学前の学習形式とのギャップに対するとまどいを感じさせるところがあり、基礎教育の充実に加えて早期に大学での学習に適応できるような環境づくりを考えていくことが課題であるだろう。

4-5 法学部

1. 科目選定方針とねらい

法学部では、2011 年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは 3 年に 1 回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2025 年度は、全教員（専任・兼任）につき授業評価アンケートを実施する年度に該当する。そこで、①講義科目については 1 教員 1 科目を対象とし、②演習科目は対象としない、との選定方針にもとづき、合計 94 科目につき授業評価アンケートの対象科目とした。大人数科目が多い法学部においては、講義科目における教育が容易ではないことに鑑み、これらの授業の改善を重視している一方、演習科目においては少人数を対象としておりアンケート調査が行いにくいという事情があるためである。

なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3 年に 1 回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

回答率は、25.6%であり、昨年度（30.0%）から数値上はかなり低下している。ただし、前回の全教員を対象とした 2022 年度（25.4%）と比較するとほぼ同水準であり、回答率と調査対象の範囲とはある程度の相関性はあるのだと理解できる。いずれにせよ、3 割にも満たない学生からの回答であることは、このアンケート結果の分析において念頭におく必要がある。

設問項目別平均値については、対象科目の範囲が大きく異なることから昨年度との単純な比較はできず、この点で比較の限界はあることは踏まえつつも、各項目の平均値は、2024 年度に比して上がっており、全体的な評価傾向としては良化したといえる。

I の学生の学習姿勢について、1「この授業に積極的に参加した」は 0.14 ポイント（2024 年度 4.19→2025 年度 4.33）、2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は 0.66 ポイント（2024 年度 1.01→2025 年度 1.67）良化しており、この変化が生じた理由についてはより詳細に分析をする必要はあるが、授業時間はもちろんのこと、授業時間外の学習を充実させるという観点からは好ましい方向性にあるといえる。

Ⅱの教員の授業改善に向けた設問項目に関しては、まず 1「各回の授業内容は明確だった」（4.42）について、2024 年度（4.28）から大きく数値が上昇している。もともとこの設問については数値が高かったところ、さらにこの数値が良化したということは特筆すべき点である。同じく 2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.32）も 2024 年度（4.14）から高い水準で良化している。これらは各教員が授業の準備を適切に行い、かつそれを明確に伝える不断の努力を行っていることの表れだと評価したい。その他、3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」としては、①「配付資料（授業のレジュメなど）」を挙げる者が最も多く（54.5%）、次いで③「パワーポイント」（38.0%）、②「板書」（21.4%）、④動画等の映像

視覚教材（15.8%）であった。この順序は前年と同様であり、これは、法律系科目を中心にテキストベースの授業となる法学部科目の特性とも関連しているものと考えられる。いずれにしても総じて、講義資料として提供されている資料については肯定的な評価が多くなされていると言えそうである。このことは、昨年度と同様に、5「この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）」において教材に関する改善要望の割合が総じて低いことにも表れている（一番多いのが①「配付資料」であるが、15.4%である）。

Ⅲの学生が授業に期待するものについて、1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」としては、②「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を選択した者が69.7%と最も多く、次いで①「自分にとって新しい考え方・発想」（47.2%）、④「学問的興味」（41.1%）が多かった。昨年度に引き続き、今年度の講義も、学生の自主的な学習を促すという長年の課題に対して十分に働きかけたものといえよう。これらが、3「この授業を受けて満足した」（4.40）という高評価につながったと考えられる。

授業規模別平均値であるが、2025年度は、50名以下が45科目であるのに対して、51～100名が7科目、101～150名が8科目、そして151名以上が4科目である。授業規模ごとの母数が大きく異なる点は留意する必要があるが、全体として授業規模と各設問項目の回答傾向に顕著な関連は見出されない。一般論として言えば、大規模授業の方が運営上の困難さがあると思われるところ、相対的に小規模の授業と遜色ない評価が出ているということは、学生の理解や満足を高めるための教員の努力が一定程度の効果をあげているといえよう。

学年別平均値についてであるが、2025年度は、一部の設問項目を除き、学年ごとの平均値に顕著な差は見られない。顕著な差があるのは、1年生における、授業外学習時間（I2）の高さであり、これは基礎的な演習科目が重視される初年次教育の特性が表れているのだと理解できる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯かつ誠実に受け止めていることが看取できる。また、相対的に評価の低い項目、あるいは学生からの個別の意見などについても、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにしている。レジュメ等の講義資料のあり方等についても、教師と学生との間のコミュニケーションの取り方の問題ともいえるが、改善すべき点を検討するとして、きめ細かく自身の授業方法の見直しに役立てようとする姿勢がみられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

例年のことではあるが、講義担当者はいずれも、学生の意見を真摯に受け止め、資料の配布方法やその内容、板書のあり方、マイク音量、あるいはスクリーン投影など技術的な次元における改善を約束している。その意味において、授業評価アンケートとこれに対するフィードバックという形で学生と担当教員とのコミュニケーションがなされていると評価できるほか、各教員における授業改善に向けた重要なきっかけとなっているといえる。

4. 今後の改善に向けて

2025 年度の授業評価アンケートの結果においては、全般的に数値が良化したこともあり、それ自体は学部としても各教員の授業実施のための努力、そして学生の学ぶ姿勢が良い方向に向かっているものとして評価したい。

ただし、大規模講義科目が多い法学部において、学生の授業外学習時間を確保していくことは、単位の実質化という観点からも大きな課題である。2025 年度は、前年度に比してこの数字が大きく伸びているが、今後もこの流れが継続できるよう、FD 活動を通じて各教員の意識を高めていくと同時に、学生が日常的に授業外での積極的かつ能動的な学修を促す必要性は高い。法学部では、多様な成績評価を新たに導入して運用を開始しているが、これが授業外での学習につながることを期待し、来年度への引き続きの課題としたい。

4-6 経営学部

1. 科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いた Web 方式による「学生による授業評価アンケート」において、経営学部はこれまで通り 2~4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、春学期 39 科目、秋学期 24 科目で実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数 13,121 名に対し回答者数 1,730 名で、回答率（回答者数/履修者数）は 13.2%だった。2024 年度の回答率は 13.8%であり、回答率が若干悪化し、他学部と比較して回答率が最も低いことから、2025 年度においても Web 方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて、2024 年度と比較して、「この授業に積極的に参加した（I1）」は 4.35（2024 年度は 4.36）で、引き続き積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り 13.2%ととても低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（I2）」について、平均値は 1.30 時間（2024 年は 1.35 時間）で、回答者は昨年度と比べて少ない学習時間を取ったことになる。具体的には、約 16.9%の学生が 0 時間、約 60.4%の学生が 1 時間、約 16.1%の学生が 2 時間、約 6.5%の学生が 3 時間以上と回答している。また、授業規模別（回答者数別）にみると、50 名以下が 1.33 時間、51 名~100 名が 1.19 時間となり、いずれも 2024 年度より減少している。なお、101 名~150 名は 1.42 時間と高まっているが、151 名以上は該当科目がないため結果は表示されていない。学年別にみると、1 年 1.29 時間、2 年 1.34 時間、3 年 1.07 時間、4 年 1.27 時間となっており、2 年を除いて授業以外の学習時間が 2024 年度より減少した。2025 年度には、適切な量の予習・復習につながる課題の提示が十分ではなかった可能性がある他、予習・復習に際して学生が生成 AI を活用することによって授業以外に学習した時間が減少したとも考えられる。2 年生ではゼミ活動が本格化したことが、授業以外の学習時間の増加に影響していると考えられる。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（II1）」に関しては、2024 年度は 4.39 に対して、2025 年度は 4.37 であった。授業規模別（回答者数別）には、50 名以下では 4.37（2024 年度 4.38）、51 名~100 名が 4.43（2024 年度 4.41）となっており、50 名以下で若干悪化した一方で、51 名~100 名でわずかに改善した。なお、101 名~150 名は前年度に該当科目がなかったため比較はできないが、4.27 であった。この結果は、授業規模が大きくなるにつれて授業内容が不明確になる傾向を表している。なお、151 名以上は該当科目がなかった。「教員の伝え方はわかりやすかった（II2）」に関しては、全体の平均が 4.23（2024 年度 4.21）、授業規模別（回答者数別）には、50 名以下では 4.20（2024 年度 4.22）、

51 名～100 名が 4.34（2024 年度 4.20）となっており、50 名以下の授業がやや悪化し、51 名～100 名は改善した。なお、101 名～150 名は 4.13 となっており、授業規模の大きさが数値の低下に影響を与えていると考えられる。なお、151 名以上は該当科目がないために結果は表示されていない。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点がありますか（Ⅱ3）」において、①配付資料は 57.8%、③パワーポイントは 38.2%が評価しており、授業の中で教員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきだと思った点がありますか（Ⅱ5）」において 55.6%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（71.2%）、①自分にとって新しい考え方・発想（42.7%）、④学問的興味（33.6%）、③自分で調べ考える姿勢（24.2%）となっており、いずれの授業規模でも同様の傾向がみられた。学年別にみても、同様の傾向だった。昨年度に引き続き、「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少ない状況が続いていることから、次年度以降も改善の必要があると考える。

「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は、2024 年度の 4.32 から 2025 年度も同じ数値となり、対面形態が定着した中で学生から高い評価を得られたといえる。授業規模別には、50 名以下では 4.30、51 名～100 名が 4.44 となっているが、101 名～150 名では 4.19 と低下するため課題となっている。一方、学年別にみると、1 年 4.14、2 年 4.47、3 年 4.46、4 年 4.52 となっている。昨年度に引き続き、2025 年度も 1 年生の満足度が他の学年と開きが大きくなっている。この傾向を改善するため、1 年生の学生を対象とした授業や 50 名以下の少人数の授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、各評価項目に関する教員自身の真摯な振り返りと分析が多くみられた。

まず肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、教材・講義資料の工夫、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、ゲストスピーカーの招請や講師自身の経験の共有、反転授業などに関して、取り組みの効果に対する言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配付資料の難易度、オンライン授業における課題・テスト実行の難しさ、動画などの効果的な活用と授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの不十分さ、履修者数に応じた教室の規模と状況に応じた教室変更などへの言及がみられた。

なお、科目によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、対面形態が定着する中で、講義資料・課題の改

善（簡素化等）や講義内容の説明の工夫、学生との対話やインタラクションの増加、評価の公平性の確保が挙げられた。

オンライン形態の科目についてはオンラインの利点をより活用する工夫（チャットやブレイクアウトルームの活用）などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫、講義資料の改善など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後の FD 活動でもフォローしていきたい。

4. 今後の改善に向けて

2024 年度の評価結果に関して、アンケートの回収率の向上、対面形授業の創意工夫とオンライン形態の一層の工夫を改善点として挙げ、FD・委員会／点検・評価委員会等にて情報を教員に共有し、意見交換をしたうえで、各教員の改善を促してきた。2025 年度には、アンケートの実施・回収に関して、教授会等で教員への呼びかけを行ったが、大きな改善は見られず、引き続き当該課題に取り組む必要がある。授業内容については、一部の科目において、教員が独自の工夫を行ったことにより、学生の満足度が向上している。このような評価結果と学生の回答率、教員の所見執筆の状況や改善案については、教授会や学部の将来構想委員会、FD 委員会を通じて今後再度共有したいと考えている。

今後の主な改善点は、以下の通りである。まず、引き続き回答率が低い状況を改善する必要がある。教員に対して、学生への周知を徹底してもらうことに加え、経営学部の学生に「学生による授業評価アンケート」への回答を促す施策を検討していく。また、所見を記載しない教員が多く見受けられる状況であるため、所見執筆に関しても、教授会などで案内をしていく。特に特別専任教員、客員教員や兼任講師に対する案内方法について検討していく。

対面形態とオンライン授業の両方で質の改善を引き続き進めていく。しかし、特に大人数の講義科目については、規模の大きさに比例して（特に 100 人以上の規模）、学生の評価も低下することから、各教員の創意工夫や情報・知識を共有してベスト・プラクティスを学ぶ合うなどの対応が有効であろう。大人数の講義科目については、対面よりもオンラインの教育効果が高い場合も考えられることから、オンラインへ切り替えた科目の担当者の意見を収集し、共有していく。また、大人数の科目に対してオンラインやオンデマンドへの切り替えの要望が継続して見受けられることから、大人数の講義科目にオンデマンドを導入していくことを検討していく。

オンライン形態に関しては、オンラインならではの講義運営や講義資料の一層の工夫が求められる。2026 年度も引き続き 1 年次の必修科目系、履修者数が多い大規模な科目、パソコンを使う演習が多い科目などにのみ認めることとした。オンライン講義に関しては、講義へのエンゲージメントを高める工夫に加え、対面形態と遜色ない満足度や理解度を得るための工夫について、各教員で継続して検討・改善していくことが有効であるといえる。

また、学生自身から寄せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかりと耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。総じて学生の評価は現時点では高いと位置づけられ、次年度もその傾向が途切れず続くことを期待したい。

4-7 異文化コミュニケーション学部

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度の授業評価アンケート科目選定方針は、「学部等ごとに 1 教員 1 科目」であった。実施対象科目は、2025 年度の授業評価アンケート実施期間内に開講されている学士課程の全科目であった。

異文化コミュニケーション学部における実施科目の決定にあたっては、専任、兼任ともに以下の条件を定めた。

- ①2024 年度に実施した科目は実施する
- ②2024 年度に実施した科目がない教員については
 - ・科目担当が 1 科目のみの場合はその科目
 - ・複数科目担当がある場合、2023 年度・2022 年度で実施した科目が 1 科目のみであればその科目
 - ・それも複数ある場合、専門科目より基盤科目、抽選登録科目より科目コード登録を対象とする（秋学期科目は履修者数が実施科目選定時点で不明のため。今回該当はないが春学期科目であれば履修登録の状況で履修者数が多い方を選定する）

2. 集計データに見られる結果のまとめ

授業評価アンケートの対象となった科目数は 138（春学期：71、秋学期：67）、実際に実施した科目数（回答者 5 名以上）は 109（春学期：60、秋学期：49）であった。

履修者の合計は 4,646 名、回答者は 2,156 名で、回答率は 46.4%であった。回答者は履修者の半分以下ではあったが、他学部などと比較した場合は、この割合は低くはなく、平均の 35.7%を 10%以上上回っている。

回答者の内訳は、1 年生：1,296 名、2 年生：443 名、3 年生：259 名、4 年生：91 名、その他：67 名であった。

「学部などによる設問」はなく、他学部などと共通の設問のみが用いられた。設問は大きく「Ⅰ 学生の学習姿勢」と「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」と「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」の 3 つに分かれ、それぞれ以下のような評価であった：

Ⅰ 学生の学習姿勢

設問Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」平均値 4.42（「5（大いにそう思う）」が最高点）

設問Ⅰ2「この授業に関連して授業以外に学習した時間（平均して 1 週間に）」平均値 1.86

Ⅱ 教員の授業改善に向けて

設問Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」平均値 4.48（「5（大いにそう思う）」が最高点）

設問Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」平均値 4.41（「5（大いにそう思う）」が最高点）

設問Ⅱ3 この授業でよいと思った点（複数選択可）：多数が「配付資料」（938 名）、「パワーポイント」（1,111 名）を選択。

設問Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点はあるか（複数選択可）：圧倒的に多いのが「上記に当てはまるものがない」（1,290 名）*、次に多いのが「配付資料（授業のレジュ

メなど)」(227名)。

Ⅲ 学生が授業に期待するもの

設問Ⅲ1 この授業から得ることができたものはあるか(複数選択可): 多数が「自分にとって新しい考え方・発想」(1,449名)、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(1,348名)を選択。

設問Ⅲ3「この授業を受けて満足した」平均値 4.44(「5(大いにそう思う)」が最高点)

*注: 設問Ⅱ5の、授業で改善すべきだと思った点があるかという設問に対し、1,290名が選択肢には当てはまるものがないと回答しているが、これが、「改善してほしい点があるけれど、上記の選択肢にはその内容を示すものがない」ということなのか、あるいは、「改善すべきだと思った点は特にない」という意味なのか(「改善すべきと思った点はない」という選択肢がないので)、判然としない。Ⅱ6では、Ⅱ5の選択肢を選んだ理由や改善を求める点について自由記述が可能であるが、そちらを実際に記入したのは301名であり、Ⅱ5で改善を求める声の具体的な内容を捉えることは難しい。

設問Ⅱ3の「よいと思った点」についても、「上記以外の点」という選択肢を選んだ学生が、「よいと思った内容が上記の選択肢に存在しない」という意味で選択したのか、あるいは「よいと思った点は特にない」という意味で選択したのか、判然としない。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

専任教員・兼任教員ともに、「授業評価に対する担当教員の所見」・「改善に向けた今後の方針」欄に何も記述がないケースが散見される(実施授業数109のうち、27ケース)。また、「1教員1科目」の方針だが、実際には同一の教員の複数の授業が評価の対象となっているケースもあった。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

上記の通り、おおむね学生の評価が良いためか、教員も、全体として、学生からの評価や指摘を冷静に、和やかに、受け入れている印象である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からの評価や指摘を受けて、「今後は〇〇となるように心掛けたい、努めたい、云々」といった表現が多くみられるが、具体的にどのような方法でそれを実行するのかについては書かれていない場合がある。

また、現状の「基礎演習」のように、定められた同一シラバスの授業を複数の教員が足並みをそろえて行う場合、「改善に向けた今後の方針」に、その授業の改善に向けて個人の意見を書いてよいのか、判断に迷うケースもあるものの、シラバスを守った範囲での各教員による改善については積極的に書いていただくとその後科目全体としての改善につながると考えられる。

4. 今後の改善に向けて

学部が取り組むべき今後の課題として、2点あげたい。1)所見欄の未記入が散見された点については、FDなどで教員に必ず記入いただくよう周知したい。2)統一シラバスで実施している「基礎演習」等の科目の「改善に向けた今後の方針」については、シラバスを守った範囲内で各教員による個別の改善について書いていただくよう、FDなどで共有したい。

回答率が非常に低いクラスの場合、アンケートの結果を履修者全体の意見としてとらえることには無理がある。オンラインでの授業評価が行われるようになる前と後で、回答率に大きな差はないだろうか。オンラインで行う前、教室で学生たちが紙に評価をマークしていたときは、おそらくもっと回答率がよかったのではないかと思われる。「アンケート」とは任意のもので、一律に提出を強要するようなものではないだろうが、履修者にとっては授業や担当教員に対する意見を伝える機会でもあり、教員にとっては履修者の声を聴ける機会でもあるので、こうした調査を行うのであれば、できるだけ回答率が高くなる方法をとるべきではないだろうか。

毎年、授業評価アンケートを行っているが、それによって各教員の授業がどれほど「改善」されているのかは、疑問である。授業というものが一方通行の「独り言」でなく、自己満足に終わってよいものではない以上、学生の声聴くことは大切だが、彼らの声に耳を傾けることばかりが授業改善の方法という訳でもなかろう。彼らに分かりやすい授業を心がけることは大切だが、その一方で、粘り強く取り組む力を育成する授業も大切なのではないだろうか。学生も、毎年構成員が変わるため、ある年のアンケートの結果がその翌年の授業にも適用可能と一概に言えるものでもない。こうしたアンケートの意義や有効な活用方法について改めて考えてみることも必要ではないだろうか。

4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

1. 科目選定方針とねらい

グローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）では、演習系科目・夏季集中科目を除く GLAP の科目のほとんどについて授業評価アンケートの対象としている。今年度は 43 科目が対象であったが、GLAP はその規模の小ささから回答者数が 4 名以下の科目が多く、データ集計の対象となったのは 25 科目、延べ回答者数は 317 名となった。2024 年度の 22 科目、282 名に比べると科目数、回答者数ともに増加しているが、これは 2025 年度にデータ集計の対象となる科目が 3 科目増加したためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

設問項目別の平均値では、各項目で学年によらず 4.4 前後という高い水準を前年度に引き続き維持していることから、学生の授業満足度が高く、授業の狙いを概ね実現できていることを示している。授業以外に学習した時間は平均 2.25 時間と全学において高い値を保っている。学年ごとの授業外学習時間は、1 年次生が 2.15 時間、2 年次生が 2.04 時間、3 年次生が 2.39 時間、4 年次生が 2.00 と大きな差は見られない。設問項目別回答割合をみると、全体としては教員の授業運営、特に教員と学生間のコミュニケーションは肯定的に受け止められており、授業に対する満足度も高いと考えられる。パワーポイントを使用することへの評価が特に高く、授業内容をスライド上にわかりやすく提示し、図像資料を効果的に使うことが学生の授業理解の助けになっている。また、配付資料を電子化することや動画等の映像視覚教材に関する評価も比較的高い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）

2024 年度は 22 科目のうち 14 科目で所見を記入いただいたが、2025 年度は 25 科目のうち 13 科目で所見を記入いただいた。記入いただけなかった科目は回答者数が少なく所見を付けることが困難であったものや、特に問題点等を見いだせなかったものと思われる。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

提出いただいた所見では、多くの学生から寄せられた肯定的な意見や積極的な授業参加に感謝するコメントが多かった。また、学生からの批判的なフィードバックを受けて、今後の授業内容やクラス運営、情報の伝達方法を工夫したいという旨のコメントが見られた。特に、GLAP の学びにとって重要であるグループ・ディスカッションの工夫についてのコメントが多く見られた。また、2025 年度から新たに専任教員 1 名と特任教員 3 名が着任しており、新任の教員からは 2025 年度の経験を次年度の授業の運営に反映したいという旨のコメントが寄せられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

今後の授業の改善にむけた方針としては、パワーポイントや電子版の授業資料を積極的に活用することや、授業開始時に授業の目的や内容、成績評価について明確に学生に伝えること、グループ・ディスカッション等の積極的な活用等が複数の教員から挙げられた。

4. 今後の改善に向けて

2024 年度に引き続き、回答者数が 4 名以下となった科目が依然として多いことは残念である。履修者数が少ない科目についてはやむを得ないが、平均回答率が 51.5%と高めであることを考慮すれば、履修人数が 10 名を超える科目では十分な回答者数を得るため、授業時間内での実施を促すよう担当教員にリマインドを行う等の工夫を引き続き行いたい。Humanities、Citizenship、Business の 3 つの専門分野ごとで科目履修のあり方に違いがみられるかという点についても 2024 年度から引き続き検討対象に上がっているが、分野別の科目は実施 23 科目中集計対象となったのが 6 科目と半数以下であり、分析にはいたらなかった。

GLAP の授業は全体として少人数授業であることから、まずはより多くの授業で学生から回答を得ることを目標としたい。2025 年度も前年度に引き続きアンケート対象科目の担当教員にメールでリマインドを行った結果、データ集計の対象となる科目および回答者数を増やすことができた。しかし、分野別の科目の分析を行うに十分な回答数が得られなかったため、次年度も引き続きアンケート対象科目の担当教員や学生への周知を通じて十分な回答数を得られるよう努力したい。また、GLAP では学期ごとにアカデミックアドバイザーと学生との面談を実施していることから、面談で得た学生からのフィードバックと授業評価アンケートの結果を合わせ、総合的に今後の課題の確認や改善にむけた対策をとっていききたい。

学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については、2025 年度も引き続き 6 月の GLAP の執行部会と実務委員会で共有し、検討した。2026 年度も 6 月の GLAP 執行部会で検討し、実務委員会で共有した。

4-9 観光学部

1. 科目選定方針とねらい

観光学部授業評価アンケート科目選定ルールと手順について、2025 年 4 月 22 日に開催された観光学部教授会で協議、決定し、授業評価アンケート科目を選定した。選定ルールと選定手順は以下のとおりである。

(選定ルール)

- (1) 原則として学部方針によって選定する 2 年間のうちに全教員 1 回 1 科目で実施する
- (2) 演習科目は対象としない
- (3) 複数教員担当科目は対象としない
- (4) 集中講義は対象としない

(選定手順)

- (1) 3 年に 1 回の 1 教員 1 科目実施年
- (2) 複数科目を担当している教員は、原則として過去 2 年間に実施していない科目を対象
(ただし教員の希望により変更可とする)
- (3) 選定ルール上、演習系、実習系、集中科目、複数担当科目は実施対象外だが、希望があれば実施は可能

この選定ルールに基づき、授業評価アンケートを実施する科目の選定を行った結果、93 科目（春学期 50、秋学期 43）で授業評価アンケートを実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

観光学部の授業評価アンケートの回答率は、28.3%と全学平均の 35.7%より低かった。学年別の回答者数をみると、1 年生が 1,379 人、2 年生が 1,373 人、3 年生が 1,173 人、4 年生が 480 人、その他（本学学部生以外）が 15 人であった。全学的にも 4 年生の回答数は少なく、学年があがるごとに回答者数は減少傾向にある。そのなかで観光学部の特徴は、1～3 年生で回答者数の偏りがあまりみられない点にある。アンケート結果は、対象科目に対する受講者全体の評価としても分析することができるが、この点は後述する。

設問項目別平均値は、次のとおりであった。Ⅰ 学生の学習姿勢の「授業に積極的に参加した (4.34)」、Ⅱ 教員の授業改善に向けての「授業内容は明確だった (4.38)」「教員の伝え方はわかりやすかった (4.26)」、Ⅲ 学生が授業に期待するものの「授業を受けて満足した (4.35)」で、学生の授業に対する満足度は高いことを示している。他方で、「授業以外に学習した時間」は平均値で 1.20 時間と短かった。ただしこの設問のみ回答者数は 1,723 人（他の設問は 4,397～4,410 人）と極端に少ない点には留意すべきで、授業時間外の学習時間については、学生が回答しなかったことが窺える。

「この授業でよいと思った点（複数選択可）」について、配付資料 (52.6%) とパワーポイント (46.3%) が大半を占めた。その一方で、「この授業で改善すべき点（複数選択可）」について、おなじく配付資料 (12.2%)、パワーポイント (5.8%) が具体的な項目として上位 2 つを占めた。「配付資料」に対する改善要望が一定程度あることが分かる。ただし回答

のうち、上記にあてはまるものがない（61.4%）がもっとも多い。これには「上記以外の改善点がある」を指す場合もあれば、「改善点はない」の意図で選択する場合もあり得る。そのため、アンケートの選択肢に「改善すべき点はない」を設ける必要があると考えられる。また「授業から得られたもの（複数選択可）」について、「基本的な専門知識」と「新しい考え方・発想」がそれぞれ 60.9%と 57.5%と高い。上記の傾向は、全学のアンケート結果でも同様である。なお「自分で考える姿勢」は 21.8%（全学の全科目では 27.8%、言語系科目を除く全科目では 23.5%）と全体的に低い傾向にある。

アンケート結果について、学科別、授業規模別、学年別に平均値がまとめられているが、設問Ⅰ～Ⅲの数値について、特筆すべき大きな差異はみられなかった。このことは、授業スタイルや学びの姿勢、授業から得るものが、学年や授業規模を問わず一定の傾向を示していることを示唆している。また専任・兼任ともに一定レベルの授業を提供することができている点が窺える。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生の肯定的な評価・意見に対する教員の所見は、次のようにまとめることができる。まず、ゲストスピーカーの講義をとおして現場の状況や最新の動向を学生に提供できた点である。また受講者数が比較的少ない科目では、グループワークをとおした能動的な学びを促すことができた。受講者数が多い科目でも、リアクションペーパーに応答したり、発言を促したりする授業設計をとおして双方向的な授業を実践することができている。

学生の否定的な評価・意見に対する教員の所見には、次のような傾向がみられた。一つはリアクションペーパーの回収に関わるもので、記入時間や回収方法に工夫を要するという点である。もう一つは、予想外の履修者数の多さにうまく対応できず、マイクの音量や板書の見やすさなど、受講環境を改善する必要があったという点である。

また「課題に対する負担」を指摘する意見と、課題を通じて学びを深めることができたとする肯定的な意見の双方がみられた。授業の評価項目には、受講者の捉え方によって長所にも短所にもなりうる要素が含まれており、所見の解釈にあたってはこの点に留意する必要がある。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

全体をとおして、配付資料（視認性、文字の大きさ、情報量の多さ）や話し方、マイクの音量、授業のスピード、板書、指示内容の明確化、課題やリアクションペーパーの提出時間を確保すること、オンラインの授業環境などテクニカルな側面を指摘するものがほとんどで、すぐに対応可能なものが多かった。

4. 今後の改善に向けて

今年度は、実施科目数が前年度の 50 科目から 93 科目へと大きく増加したが、回答率は 30.5%から 28.3%への低下で概ね横ばいで推移したといえる。ただし、数値上は 2.2 ポイントの低下がみられ、依然として回答率は低いため、今後も回答率向上に向けた周知や実施方法の工夫が必要である。昨年度、授業内容や方法上の課題とされていた点については、グ

ストスピーカーの活用や、受講者数の規模を問わずアクティブ・ラーニングを導入するといった試みが複数科目で実践されており、一定の効果をあげていることが分かった。前年度の課題としてあげられていた「パワーポイント」については、上述の結果のとおり「授業でよいと思った点（46.3%）」に対し「改善すべき点（5.8%）」で、改善されたと考えられる。

上記の「2. 集計データにみられる結果のまとめ」で、「配付資料」に対する改善要望が一定数あることを指摘した。この点について、見やすさ、情報量、メモをとるスペースがないなど技術的な改善点が指摘されているが、次の点にも留意すべきである。所見や改善点として複数人が指摘していたのは、電子媒体で資料を配付する場合、著作権に触れる資料を共有できない点について学生に理解を求めるものである。著作権のある資料は、学習内容の要点や関心を引き出す視点が凝縮されており、配付や共有を希望する学生の声があるのは理解できる。今後は、こうした配付物に関わる著作権について、教員側から十分周知することで配付資料に対する要望の減少につながると考えられる。

ただし、配付資料に対する改善要望の方向性は一様ではない。「すべての投影資料を配付してほしい」という要望と、「書き込みを促すような工夫された資料を求める」声が混在している。さらに教員の授業設計上の意図から、あえて全配付はしないケースもある。それぞれの立場や学習へのアプローチによって最適な資料のあり方は異なるため、本件については今後も一定数の改善要望がみられると考えられる。

4-10 コミュニティ福祉学部

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度における科目選定方針は、大学の方針にそって、専任教員、兼任講師も含め、1 教員 1 科目である。なお、コミュニティ福祉学部の方針としては、次の 4 点を踏まえる。

- (1) 学部専任教員（助教含む）1 科目の実施を原則とする
- (2) 資格科目を優先する
- (3) 演習科目は対象外とする
- (4) 昨年度実施科目を優先する

以上の結果、専任教員および兼任講師の 114 科目が授業評価アンケートの対象科目となり、最少回答人数（5 人以上）を満たした 99 科目（春学期 59 科目、秋学期 40 科目）で実施された。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

全学平均あるいは他学部と大きく差異のある結果のみについてまとめる。

2-1 全体を通じて

2025 年度のコミュニティ福祉学部の回答率は 38.4%であった。COVID-19 の影響により 2020 年度より年々回答率が低下していた。2022 年度には 29.3%まで低下した。この事態に対して危機感を持ち、2023 年度には授業評価アンケート結果を FD の中で共有するとともに、回答率が高くなるアンケート方法、実施時間等について案内した。さらに、授業評価アンケートが実施される 1 週間前にそうした取り組みを促すメールを配信し、教員側の努力を促した。その結果 2023 年度には 48.3%、2024 年度 48.6%と大幅に上昇した。しかし、2025 年度は 38.4%と低位に留まった。

表 1 年度別回答率

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
コミュニティ福祉学部	53.5%	46.1%	29.3%	48.3%	48.6%	38.4%
全学平均	45.8%	37.9%	34.2%	40.0%	40.2%	35.7%

2-2 項目別

I 学生の学習姿勢 II 教員の授業改善に向けて III 学生が授業に期待するものについては、学部全体として以下のことがいえる。

「この授業に積極的に参加した」は 4.42、「各回の授業内容は明確であった」4.46、「教員の伝え方は明確であった」4.37、「この授業を受けて満足した」4.43 いずれも高位であった。

表 2 年度別・授業外学習時間

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
時間数	0.83	0.89	1.41	1.20	1.12	1.56	1.29	1.20

授業外学習時間はやや低下傾向にある。全学部平均 1.50 に比較しても低位である。学科別では「福祉学科」1.11、「コミ政学科」1.29 とやや差異がある。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

教員の所見は、アンケートの内容を熟読し、真摯に受け止めている様子が伝わってくる内容が多かった。学生に対して回答への感謝を記したメッセージも多く、中には否定する意見に対しても勇気を持って記入したことに感謝している教員もみられた。

改善点を指摘している評価や意見についても、自身の授業を振り返り指摘事項を真摯に受け止め、具体的に改善点を書いている教員も少なくなかった。

しかし一方で、担当教員の所見を書かない専任教員が4人居たことは残念である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

授業アンケートに対して、全学で延べ8万人（コミ福で延べ3,900人）もの学生が回答し意見を述べていることを真摯に受けとめる必要がある。概ね良好な回答が多いが、中には改善点を率直に書いている学生もいる。教員の責務として、学生の意見に耳を傾け、伝えようとした知識等が学生に理解されたかを確認する必要がある。本アンケート結果が公表されることから、少なくとも教員が学生からの率直な意見を読み、受けとめたことを表すために、所見を書くことは必須事項と考えられる。

4. 今後の改善に向けて

2024年度は約半数48.6%の回答率であったのに、2025年度は38.4%と10ポイント以上回答率が低下したことは、本アンケートが学生との意見交換という意味を持っていることから、大変残念な結果と言わざるを得ない。まずは回答率を高めるよう学部として努力したい。アンケート実施前に、授業評価アンケートの回答率を高めるための意義と方法等をFDとして取り組みたい。

また、先にも記載したように、所見を書かなかった専任教員が4名いたが、所見を通じてこれは全教員が執筆するよう教員へのアナウンスにも積極的に取り組むことにしたい。

本アンケートによる学生からの個々の教員への具体的な評価や要望については、各教員が真摯に読み、自身の強みを伸ばし、指摘事項を改善していく好循環を生み出すため学部として取り組んでいきたい。

4-11 現代心理学部

1. 科目選定方針とねらい

学部科目のうち専任・兼任講師の別を問わず、2025年度の全学方針「1 教員 1 科目」に則って科目選定を行い、76 科目を対象科目とした（春学期 28 科目、秋学期 48 科目）。回答者総数が 5 名に満たなかった科目を除く 64 科目が実施科目となった（春学期 26 科目、秋学期 38 科目）。こちらの「学生による授業評価アンケート」をふまえ、学部教育の根幹となる基礎から応用科目について学生の授業評価の動向を捉え、各講師が今後の学部教育においてさらなる研鑽・授業改善の意識を認識するねらいがある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率

本学部の 2025 年度の回答率は 22.1%であり、前年度の 32.8%から減少した（なお本年度は 3 年に一度の「1 教員 1 科目」の方針に則って科目選定をした年度である）。2025 年度の全学の平均回答率が 35.7%であったことを考えると、本学部の回答率は低い水準にあると言える。各授業の担当教員から履修者へ向けて、アンケートへの回答を積極的に呼びかける、授業時間内でのアンケート回答を促すリマインドを行うなど、回答率の改善に向けたさらなる工夫と取り組みが必要であると考えられる。

I：学生の学習姿勢

「I1：この授業に積極的に参加した」の平均値は 4.36、標準偏差が 0.68 であり、回答者の積極的学習姿勢が反映されている。2024 年度の平均値は 4.21 であり、2025 年度は 2024 年度以上に、学生が積極的に授業に参加したことが数字から伺える。「I2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は平均で、1.16 時間となっている。これは 2024 年度の 1.00 時間より微増している。それぞれの授業では、教員から授業時間外の学習についてより明確に目安を伝えるなど工夫をすることで、さらなる積極的な学習姿勢を促したい。

II：教員の授業改善に向けて

「II1：各回の授業内容は明確だった」の回答の平均値が 4.49（2024 年度は 4.45）、「II2：教員の伝え方はわかりやすかった」の平均値が 4.38（2024 年度は 4.34）と、2024 年度に続いて高い評価を得た。この数字は、現代心理学部の開講科目教員が、それぞれの授業内容を明確にするとともに、授業でのわかりやすい伝え方に工夫しているあらわれであると見なすことができるだろう。今後も、授業内容の明確化、わかりやすい伝え方に研鑽を積んでいくことが重要であると考ええる。

III：学生が授業に期待するもの

「III3：この授業を受けて満足した」の回答平均値は 4.42 であり、2024 年度の 4.36 と同様、高い評価を得た。明確な授業とわかりやすい伝え方に関する、前項での回答値と合わせて、学生は現代心理学部の授業の内容を十分に理解したうえで、その授業内容について満足しており、これは教育に携わるものとしてはこの上ない喜びである。現代心理学部では引き続き、質の高い授業を提供していくよう研鑽を重ねていくことを心がける。

IV：学部等による設問

2024 年度も、例年通り「IV1：この授業の受講者数は適切だった」と「IV2：この授業の設備・環境に満足している」の2つの問を設けた。それぞれの平均値は4.34と4.40（2024年度は4.40と4.33）であり、授業における学習環境についても学生のニーズを充足していると言える。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

学科別データでは、「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか」という設問に対して、心理学科では「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が81.7%で一位である一方で、映像身体学科では「自分にとって新しい考え方・発想」が70.7%で一位であり、各学科の科目の特色が出ていると言える。この傾向は2024年度と同様のものであり、それぞれの学科の特色が継続的に出ているものと考えられる（2024年度における心理学科の「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」は81.5%、映像身体学科の「自分にとって新しい考え方・発想」は67.4%）。なお映像身体学科では「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の回答を58.9%で得ており、心理学科では「自分にとって新しい考え方・発想」の回答を50.2%で得ている。いずれも低い数値ではなく、学生は両学科とも、専門知識と新しい考え方の両方を授業から学んでいることが伺える。

授業規模データに関しては、「この授業で良いと思った点がありますか」という設問に対し「パワーポイント」を挙げた割合が、50名以下の回答者数の授業では36.9%であるのに対し、51～100名の授業では51.6%であった。50名以下の回答者数の授業で「この授業で改善すべきだと思った点がありますか」という設問に対し、「パワーポイント」と答えた割合は3.7%であり（51～100名の授業でも3.7%）、50名以下の回答者数の授業でパワーポイントの準備が十分でないということを意味しないが、多くの回答者がいる大人数の授業になるほど、教員はパワーポイントを効果的に使用し、よりわかりやすく、深い学問的水準に達する授業をおこなうように工夫していることが伺える。

学年別データでは、回答者数が、2年生は757名と多く、3年生は518名、4年生は179名（1年生は392名）と徐々に少なくなっている。これは3年生と4年生になるにつれ、ゼミナール形式の少人数の授業が中心になり、アンケートの対象科目を履修することが少なくなっていることを反映している可能性があり、回答者数が少ないことはかならずしも否定的なことを意味していないと考えられる。「この授業に積極的に参加した」、「各回の授業内容は明確だった」、「教員の伝え方はわかりやすかった」、「この授業を受けて満足した」という設問への回答は、いずれの学年においてもすべて4点を上回っており、全体的に高評価となっている。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの評価は基本的に肯定的なものが多かったこともあり、担当教員も授業目標や学修の目的を達成していることを実感している様子が多く見られた。特に、授業への積極的参加、授業のわかりやすさ、授業で得られたもの（新しい考え方や専門知識）など、どういった点で学生が学びを実感しているかを、担当教員が確認でき、今後の授業の励みとなった

ことがわかった。改善の要望は真摯に受け止め、さらに充実した授業を行うように意欲を表明するコメントも多く見られた。改善の内容については、以下の3-2にまとめる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からは、授業運営に関して具体的な改善案の提示がなされるケースが見られた。それぞれの教員は学生からの意見を真摯に受け止め、スライドの見やすさ、板書の見やすさ、配付資料の形式やタイミング、授業進行スピード、授業のペース配分など、具体的な改善に向けた取り組みのヒントを得ており、より充実した授業を運営することへ意欲的な姿勢を見せていた。

4. 今後の改善に向けて

それぞれの授業担当教員が日々、より充実した授業の運営のために真摯に取り組んでいることが今回の「学生による授業評価アンケート」によって確認され、またこの授業評価アンケートの結果を活用しながら、さらに授業を改善していこうとする姿勢が明らかになった。ここには授業評価アンケートと担当教員の非常に有効な循環を認めることができ、まずはこの循環を良いもののまま保つことが大切であると考え。そのためには、授業評価アンケートの意義に関する各授業の担当教員への説明をさらに丁寧におこない、その授業評価アンケートの結果の有効活用について再度お願いすることが必要である。

同時に、学生に対してもこの授業評価アンケートの意義をさらに徹底して回答率を上げる努力を重ねたい。学生の回答率向上については、2024年度の授業評価アンケート総評でも課題として取り上げられており、学生には「授業の質向上」のために授業評価アンケートは大きな役割を果たしていると何度も周知を重ねていくことが大切だと感じている。

そのほか、2024年度の授業評価アンケート総評では、しょうがい学生支援の充実という観点も提起された。これに関して、遠隔授業の提供が行われるケースについて言及され、こうした点が授業評価アンケートの結果に反映されるのかという点での課題も提起された。授業評価アンケートという形式では、こうした重要な論点が十分に汲み尽くすことができない可能性があり、授業評価アンケートをより有効に活用していく工夫は必要であるが、同時にさまざまな方法で、より質の高い授業を提供できるように知恵を絞りたい。

4-12 スポーツウエルネス学部

1. 科目選定方針とねらい

2023 年度に開設された本学部は、2025 年度で開設 3 年目を迎えた。2025 年度は、全学の科目選定方針である「学部等ごとに 1 教員 1 科目」の原則に基づき、以下の方針で科目を選定した。

- 学部専任教員（助教を含む）について原則 1 教員 1 科目とする。
- 講義科目を中心に、受講者数が一定数見込める科目を優先する。
- 専門演習等の演習科目は原則として対象外とする。
- 学部独自の設問は設けない。

ねらいは、それぞれの教員が学生による評価を受け、その結果を今後の授業改善にフィードバックすることにある。受講人数が一定数見込める講義科目を中心に幅広く対象とし、3 年次の専門展開科目も対象に加えた。また、英語による科目も対象に含めて評価を行った。演習科目は少人数で学生の顔が見えやすいため、選定の優先順位を低くしている。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 アンケート実施科目数と回答率

2025 年度は、対象科目 50 科目のうち、最少回答人数（5 名以上）の条件を満たした 41 科目（春学期 25 科目・秋学期 16 科目）をアンケート実施科目とした。前年度（実施 16 科目）から大きく増加しており、開設 3 年目を迎えて専門展開科目が立ち上がり始めたことが背景にある。回答者数は 1,974 名、履修者数 4,163 名に対する回答率は 47.4%であった。これは全学の回答率 35.7%を大きく上回り、運営センター等を除く 11 学部の中で最も高い回答率である。ただし、新学部で上級生（4 年生 53 名）がまだ少ないことが高回答率に関与している可能性があり、専門展開科目が本格化する今後の動向を注視する必要がある。

2-2 設問からの結果とまとめ

設問Ⅰ1（積極的に参加した）平均 4.41、Ⅱ1（各回の授業内容の明確さ）平均 4.46、Ⅱ2（教員の伝え方のわかりやすさ）平均 4.38、Ⅲ3（満足度）平均 4.45 と、5 件法による主要設問はいずれも高い水準にあり、全学平均（Ⅱ1 4.45、Ⅱ2 4.36、Ⅲ3 4.40）と同等以上であった。一方、例年同様にⅠ2「授業以外に学習した時間」は週約 1.04 時間と少なく、全学（1.50 時間）を下回り全学部・センター中で最も短かった。授業時間外にも学習意欲を持たせる課題設定が引き続きの検討課題である。Ⅲ3「満足度」は 4.45 と高く、これと各設問との関係を次項で検討した。

2-3 授業の満足度と各種評価の関係性について

1) 回答率と授業満足度（設問Ⅲ3）との関係

科目別に回答率と平均満足度の関係を調べたところ、本年度は弱～中程度の正の相関がみられ、回答率が高い科目ほど満足度も高い傾向が認められた。授業への関与が高い学生ほど高く評価する傾向にあると考えられる。

2) 授業の満足度と正の相関を示す項目はどれか？

満足度（Ⅲ3）と各設問との相関を調べた結果、正の相関を示す主な項目は以下のとお

りである。

- ① 教員の伝え方のわかりやすさ（設問Ⅱ2）、各回の授業内容の明確さ（設問Ⅱ1）
- ② この授業から新しい考え方・発想を得たこと（設問Ⅲ1①）
- ③ 配付資料や動画等の映像視覚教材がよかったこと（設問Ⅱ3①・④）
- ④ パワーポイント・板書がよかったこと（設問Ⅱ3③・②）
- ⑤ 学問的興味が得られたこと（設問Ⅲ1④）

すなわち、教員の伝え方のわかりやすさと内容の明確さが満足度に最も強く関連し、加えて、新しい考え方を得られることや、配付資料・動画・パワーポイント等の教材の充実が満足度を高めていた。一方、シラバス（設問Ⅱ3⑤）は関係が弱く、教材の見せ方・伝え方の工夫が重要といえる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

- 1) 教材・授業手法の工夫：パワーポイント、動画・映像教材、書き込み式の配付資料等の視覚教材に加え、ゲストスピーカー、ディスカッション、小テスト等の活用が、わかりやすさ・参加意欲・満足度につながったとの評価が多く、多くの教員から挙げられた（設問Ⅱ3③53.5%・④32.3%は全学を大きく上回る）。
- 2) 資料・伝え方への課題認識：配付資料やスライドの分量が多い、文字・図が見えにくい、進行が速いといった指摘を受け、資料の精選と視認性の向上を要するとの所見が共通してみられた。
- 3) 授業外学習・主体性への反省：授業外学習時間や「自分で調べ考える姿勢」（設問Ⅲ1③）が十分でない点を課題とし、課題・小テストやディスカッションにより主体的な学びを促す必要があるとの内省がみられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

今後の改善方針として、多くの教員が、配付資料・パワーポイントの分量精選と文字サイズ・配色・図の視認性向上、復習に役立つ資料構成への見直しを挙げており、重要なポイントであると認識できる。あわせて小テストやディスカッション・グループワーク、ゲストスピーカー等の双方向・主体的な学びの機会を維持・拡充して授業外学習・主体的学習を促すこと、動画・映像教材の追加・更新、出席確認方法の見直し、英語表記や専門的背景の差のある学生への丁寧な説明や配慮などが示された。

4. 今後の改善に向けて

2024年度総評で良好と評価した高い回答率は、2025年度も47.4%（11学部中首位）と維持され、学生の授業評価への高い参加が継続している。2024年度に課題とした資料作成スキルの向上については、よいと思った点（Ⅱ3）においてパワーポイント53.5%・動画32.3%という全学を大きく上回る教材活用にみられるとおり一定の改善が進み、満足度（Ⅲ3 4.45）の高さに寄与している。本年度の分析でも、満足度は教員の伝え方・内容の明確さ、新しい考え方や学問的興味、教材・資料の充実と相関しており、わかりやすい資料づくりと伝達方法のスキルアップが引き続き重要であることが確認された。一方、授業時間外の学習時間

（週 1.04 時間）は全学最低の水準が続いており、最も重要な継続課題である。担当教員の所見でも資料の視認性向上と主体的学習の促進が共通課題として挙げられており、小テスト・課題や双方向学習の導入を進め、2028 年度のカリキュラム改編にも評価結果を反映していきたい。

4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

1. 科目選定方針とねらい

2025 年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

(1) 総合系科目「学びの精神」(FH)

(2) 総合系科目「多彩な学び」の以下 6 カテゴリ

(①人間の探究 (FA)、②社会への視点 (FB)、③芸術・文化への招待 (FC)、

④心身への着目 (FD)、⑤自然の理解 (FE)、⑥知識の現場 (FV))

を対象に 1 教員 1 科目の実施とする。

また、これらに追加して

(3) 「立教ゼミナール発展編」の全科目

(4) F 科目 (導入) の全科目

(5) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場 (FV)」におけるグローバル教育センターが提供する全科目

を対象に、授業評価アンケートを実施した。実施合計は 373 科目であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

全学共通科目・総合系科目の 2023 年度⇒2024 年度⇒2025 年度のアンケート実施科目の延べ履修者数の推移は、42,223 名⇒43,178 名⇒44,617 名であり、回答者数の推移は、12,606 名⇒13,034 名⇒13,377 名 (2025 年度内訳：1 年次：7,026 名、2 年次：3,256 名、3 年次：1,740 名、4 年次：955 名、その他：400 名) であり、回答率の推移は、29.9%⇒30.2%⇒30.0%となっている。対面マークシート方式の最後の実施となった 2019 年度の 65.55%のような回答率には至っていないが、概ね安定的に推移している。しかし、低率であることは否めないため、教員が授業中にアンケートの意義を丁寧に説明し、学生に協力を促すことが今後とも必要である。

設問Ⅰ「学生の学習姿勢」に関しては、「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」の平均値は 4.37 と、前年から微増し安定した高評価を維持している。また、「授業外の学習時間 (Ⅰ2)」の平均は 1.35 時間と過去 3 年 (1.14 時間、1.20 時間、1.17 時間) より増加しており、授業外での学習時間を促す工夫が各教員でなされたと言えよう。学年別では 4 年次生が 1.53 時間と最も長く、1 年次生が最長であった前年とは異なる結果となった。カテゴリ別では大学の内外で授業を行う「多彩な学び 6 (FV)」が 4.19 時間と突出しており、授業の構成が学習意欲や時間に大きく関係していることを示唆している。

設問Ⅱ「教員の授業改善に向けて」では、「授業内容の明確さ (Ⅱ1)」の平均値が 4.41、「伝え方のわかりやすさ (Ⅱ2)」が 4.34 と、いずれも前年を若干下回ったが、安定して高評価を維持している。「この授業でよいと思った点 (Ⅱ3)」では、配付資料 (53.6%)、パワーポイント (44.9%)、動画教材 (31.1%) が上位であり、特に視覚教材の活用が授業理解を支えている様子がうかがえる。他方、「改善すべき点 (Ⅱ5)」では配付資料 (13.5%)、パワーポイント (6.7%)、板書 (5.8%) の順となっており、評価と課題の両面で資料に対する言及が目立った。

設問Ⅲ「学生が授業に期待するもの」では、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」の平均値が 4.37 と前年と同水準であり、一定の満足度が維持されている。「得られたもの (Ⅲ1)」

としては、新しい考え方・発想（66.7%）、専門知識（53.1%）、学問的興味（44.3%）が上位に挙げられ、授業を通じて知的刺激や関心の拡大が見られた。ただし、自分で調べ考える姿勢は 22.7%と前年同様に低水準にとどまり、今後も学生の探究的な学習を促すような仕掛けが必要である。

設問Ⅳ「学習環境」に関しては、「教室の大きさ（Ⅳ1）」が 4.27、「受講者数の適正さ（Ⅳ2）」が 4.29、「環境・設備（Ⅳ3）」が 4.36 と、いずれも前年より微増しており、学習環境の整備が進んでいることが伺える。「学びの精神」科目においても、「高校と大学の学びの違い（Ⅳ4）」が 4.36、「大学の授業への心構え（Ⅳ5）」が 4.23 と、前年同様に高評価となっており、導入教育の効果が着実に現れている。

F 科目における設問Ⅳ6「英語で学ぶことに対する意欲が向上した」は 4.17 で前年より微増しており、学生の英語学習に対する前向きな姿勢が強まりつつあることがうかがえる。カテゴリ別では「多彩な学び 6（FV）」の 4.31 に次いで、「多彩な学び 3（FC）」の 4.27 と高く、英語による授業が一定の教育的成果を上げていることが分かる。F 科目のうち「学びの精神」に属する F 科目（導入）は、初年次の段階で英語による授業に慣れる機会を提供することを意図したものである。同設問Ⅳ6 で 3.95 と言語不安の軽減に一定の効果を果たしていると考えられるが、F 科目（中上級）科目への履修につながるよう、学習を継続する動機づけの強化が必要である。

総じて、教員の授業設計や教材の工夫に対して学生の評価はおおむね好意的であり、授業満足度も安定して高い水準を維持している。ただし、Web 方式の限界による回答率の停滞や、主体的学習の促進、英語学習の継続的支援といった課題は依然として残っており、アンケート制度の意義を教員・学生の双方が理解し、教育改善につなげていく姿勢が求められる。

3. 各カテゴリの総評

3-1 学びの精神（FH）

1 年次生対象の「学びの精神（FH）」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することなどを目的としている。2025 年度は 2024 年度とほぼ同じ 100 科目で実施することができた。ただし、昨年度と同様に、回答率が高いとは思われず、全学生の意向を反映できているかどうかはわからない。本カテゴリに限らず、現在実施されている授業評価アンケートには、教員側にも学生側にも回答率を高めたいという動機付けがあまりないということなのであろうか。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」は、初年度の 2016 年度は 0.68 時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、その後、0.75 時間（2017 年度）→0.78 時間（2018 年度）→0.84 時間（2019 年度）→1.32 時間（2020 年度）→1.29 時間（2021 年度）→1.11 時間（2022 年度）→1.19 時間（2023 年度）→1.11 時間（2024 年度）と推移し、2025 年度は 1.29 時間であった。大学での学びにおいて、授業外での学習を主体的に進める力を身に付けることは重要であり、こうした力を初年次教育で養うことは「学びの精神」に期待されていることの一つである。ただ、担当教員の所見票を拝読する限り、授業外学習の重要性については十分に認識されていないようにも見える。この点については、あらためて担当教員間で認識を共有する必要があるのかもしれない。

「教員の授業改善に向けて(Ⅱ)」のうち、「各回の授業内容は明確だった(Ⅱ1)」が4.33、「教員の伝え方はわかりやすかった(Ⅱ2)」が4.24となっている。担当教員の所見票からは、映像資料の活用など、多くの先生方が授業改善に向けて様々な工夫をされていることが分かる。この場を借りて先生方に感謝申し上げる。

「学生が授業に期待するもの(Ⅲ)」については、「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」が4.27となっている。2021年度の4.11、2022年度の4.15、2023年度の4.20、2024年度の4.29と満足度が高まってきたが、少し足踏みをしているという感じであろうか。全力りの中では満足度が一番低いカテゴリになっているが、その理由を担当教員の所見票から読み解くのは難しい。また、「この授業から得ることができたものはありますか(Ⅲ1)」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」が67.7%であり、この点については「学びの精神」の役割を一定程度果たしているように思われる。他方で、「③自分で調べ考える姿勢」が20.3%となっており、この点については「学びの精神」の役割を十分に果たすことができていないのではないかと考えられる。担当教員の所見票の中には、「昨年同様、授業ではグループディスカッションや発表の場を毎回設け、学生の積極的かつ主体的な参加を促すことを心掛けたが、「この授業から得ることができたものはありますか」という問いには、最も多い回答として22人が「自分にとって新しい考え方・発想」を選択し、次に多い回答として21人が「自分で調べ考える姿勢」を選択した。各回で異なるSDGsに沿って子どもの権利を考える授業内容、多様なバックグラウンドを有するゲストスピーカーによる講義や、グループメンバーとのディスカッションを通して、学生が関連する情報を自ら調べ、新たな視点で社会課題・子どもの権利を考える機会を提供できていたことを大変嬉しく思う。さらに、19人が「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」、16人が「学問的興味」と回答しており、学生の知識向上、今後の学びに繋がる機会にもなったとすれば、この上ない喜びである。」というものがあり、参考になる。「学びの精神」の狙いを達成するために、どのような授業運営の工夫がありうるのか、担当教員間で授業改善情報を共有する機会を今後も設けていきたい。

3-2 多彩な学び

1) 人間の探究(FA)

「人間の探究(FA)」では56科目でアンケートが実施され、1,716名の回答があった。学生の学習姿勢として、I1「この授業に積極的に参加した」との設問には、「そう思う」と「大いにそう思う」の間に該当する4.40という数値が出ており、概ね意欲的であったと判断できる。この項目に関しては「学びの精神」から「多彩な学び1~6」において似たような数値が検出されており、全体的に学生の意欲は高めであり、FAにおいても同様の傾向が見られる。I2「授業以外に学習した時間」は1週間で平均1.12時間と昨年より微増して1時間を越えたが、他の科目コード分類でも「多彩な学び6」(FV)が4.19と突出しているのを除けばいずれも1.00の前半の数値であり、FAだけがとりわけ低いわけではなく、全体からみると平均的な数値であると判断できる。以上から、FAにおける学生の学習姿勢は概ね高めであり、それは全体の傾向に沿ったものであると見られる。次にII「教員の授業改善に向けて」の項目であるが、II1「各回の授業内容は明確だった」、II2「教員の伝え方はわかりやすかった」の両項目はいずれも5段階評価で4と5の中間域にあり、他の科目コード分類

でもほぼ同様の数値を示している。このことから、学生側から改善すべき大きな問題は特に認識されていないと判断できる。Ⅱ3「授業でよいと思った点」では①配付資料と③パワーポイント、④動画に評価が集まっており（30～40%台）、②板書が微増して10%台半ばであり、⑤シラバスは評価が低い（10%台以下）。昨年同様、いずれも視覚効果と関係があることが予想されるが、同様の傾向はFAのみならず全体でも見られる。板書の代替手段として③パワーポイントが評価され、相対的に②板書の評価が低くなったとみられるが、Ⅱ5「改善すべきと思った点」で②板書の評価が低い（数値が高い）わけではなく、単に③パワーポイントのほうが授業に効果的と認識されている結果であると思われるのも昨年と同様である。⑤シラバスも改善すべき観点からは評価が低い訳ではない。単に学生側がシラバスをあまり重視していない結果であろうか。大学側が授業における「契約」としてシラバスを重視している点とは温度差が見受けられる。一方で①配付資料はⅡ3「授業でよいと思った点」で50%近くと他の項目よりも高い評価を受けているにもかかわらず、Ⅱ5「改善すべきと思った点」ではおよそ13%と他項目よりも数値が高い。ここから、学生は配付資料を授業内容を評価する要素として重視していることがわかる。また、配付資料の完成度や効果は授業ごとに異なり一律ではないと見られることから、各教員・各授業における配付資料の有効性の差異がこの結果に反映した可能性も考えられる。昨年同様、この設問への回答で最も数値が高いのが「⑥あてはまるものがない」であることから、授業の補助資料や視覚効果に関しては学生からの不満はさほど大きくないと判断できる一方で、従来からの既存の授業スタイルにとらわれない新たな授業効果を学生側も期待していると考えられる。Ⅲ「学生が授業に期待するもの」の項目のⅢ3「この授業を受けて満足した」では、5段階評価で4.37と4から5にかけての中間域にあり、他の科目コード分類でもほぼ同様の数値を示している。よって、学生はほぼ満足していると判断でき、それは全体的にも同様の傾向を示している。Ⅲ1「この授業から得ることができたもの」の設問では、①新しい考え方・発想が70%台近く（昨年より微減）、②基本的な専門知識がほぼ50%、④学問的興味は40%台半ば（昨年より微減）であり、これも「多彩な学び6」（FV）を除く他の科目コード分類の傾向とほぼ一致している（ただし、FAは他よりもやや低いとも見ることができる）。Ⅳ「学部等による設問」では、教室の大きさ（Ⅳ1）、受講者数（Ⅳ2）、教室環境や設備（Ⅳ3）など授業の環境に関する設問がなされているが、5段階評価で4から5にかけての中間域に平均値があり、学生側からは授業環境に関しても特に大きな問題は認識されていないと判断できる。これも昨年の傾向とほぼ同様である。

担当教員の所見としては、予定していたクライマックスとは異なり、時事情勢に応じた内容に修正せざる得なかったという意見や逆に履修者の期待を裏切らないためにシラバスの記載内容に配慮せざるを得ないという意見、また、学生から授業で使用した画像資料の提供を求められたが著作権の関係上応じられなかった、出席確認が形式的になってしまったためディスカッションを導入したところ有効であった、ゲストスピーカーのリアルな経験に基づく話が学生から高評価を得た、などが特徴的な所見として挙げられる。なかでも、グループディスカッションとゲストスピーカーの有効性は複数の教員から所見として挙げられており、FAに限らず他の科目においても同様の傾向が見られることから、共通性が高い所見であると言える。また、映像資料・画像資料など視覚に訴える効果の有効性も同様に共通性の高い所見として挙げることできる。ただし、Zoomに関しては、学生側からの雑音が入

って他の学生からの苦情の原因となった、立ち上げに時間がかかって授業進行に影響を及ぼしたなど一定数のトラブルが改善点として挙げられている。これは FA だけに限られることではないだろう。そのほか、共通性の高い所見としては、学生の満足度が概ね高いということに対する安堵、すなわち、現状の自身の授業形態やその工夫に対する肯定的な評価が挙げられる。

2) 社会への視点 (FB)

「社会への視点 (FB)」では、計 79 科目に対してアンケートが行われ、回答者数は 2,268 人であった。点数評価の結果を見ると、前年度と同じく、多くの項目が総合系科目の平均値と同様の傾向にあり、「各回の授業内容は明確だった (Ⅱ1)」「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」といった項目は、いずれも点数が高かった。しかし、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に) (Ⅰ2)」は、前年度と異なって平均時間より短くなった。関連項目の「この授業でよいと思った点がありますか (Ⅱ3)」においては、「①配付資料 (授業のレジュメなど)」と「③パワーポイント」のほか、「④動画等の映像視覚教材」を挙げる学生が目立つ。所見票の科目担当者の記述からも、対面・オンラインの授業形態や履修者数の多寡に応じて、適切な授業運営を試みていたことが確認される。ただし、「この授業で改善すべきだと思った点がありますか (Ⅱ5)」においても、「①配付資料 (授業のレジュメなど)」が多数指摘されている。以上より、授業評価における授業資料に対する学生の関心の大きさが確認できる。このほか、関連項目の「この授業から得ることができたものがありますか (Ⅲ1)」という項目では、「①自分にとって新しい考え方・発想」と「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を挙げる学生が多く、「③自分で調べ考える姿勢」と「④学問的興味」を挙げる学生は少数派である。ただし、例外的に「③自分で調べ考える姿勢」と「④学問的興味」を挙げる学生が多数派の科目もあり、こうした事例を参考にしながら、「社会への視点 (FB)」というカテゴリの科目として、継続して改善を図っていく必要がある。

3) 芸術・文化への招待 (FC)

「芸術・文化への招待 (FC)」では 48 科目でアンケートが実施され、延べ 1,483 名の回答があった。学生の学習姿勢についてみると、「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」の平均値は 4.39 であり、「そう思う」と「大いにそう思う」の間に位置していることから、学生は概ね意欲的に授業へ参加していたと考えられる。この数値は「学びの精神」や他の「多彩な学び」区分とほぼ同水準であり、全学共通科目全体に見られる高い学習意欲を反映した結果といえる。また、「授業以外に学習した時間 (Ⅰ2)」は週平均 1.18 時間であり、「学びの精神」や他区分と比較しても大きな差は見られない。したがって、FC における学生の学習姿勢は全体の平均的傾向の中にあり、授業への主体的な参加意識は比較的高い水準にあると判断できる。次にⅡ「教員の授業改善に向けて」の項目を見ると、「各回の授業内容は明確だった (Ⅱ1)」は 4.47、「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」は 4.39 であり、いずれも高い評価を得ている。これらの値は他の科目コード分類とほぼ同程度かやや高い水準にあり、学生から授業運営や説明方法について大きな問題は認識されていないことがうかがえる。「この授業でよいと思った点 (Ⅱ3)」では、①配付資料 (53.4%)、③パワーポイント

ト(46.6%)、④動画等の映像視覚教材(37.2%)が比較的高い割合を占めている。一方、②板書(14.0%)や⑤シラバス(6.1%)は低い割合にとどまった。これらの結果から、学生は授業理解を助ける視覚的教材や資料を高く評価していることがわかる。この傾向はFCに限らず他区分でも共通してみられるものであり、近年の授業においてパワーポイントや映像資料が重要な学習支援ツールとして機能していることを示している。一方、「改善すべきだと思った点(Ⅱ5)」については、①配付資料(13.6%)、③パワーポイント(6.9%)、②板書(4.9%)、④映像教材(1.9%)などの数値はいずれも低く、最も高い回答は「⑥上記にあてはまるものがない」(60.0%)であった。このことから、多くの学生は授業方法や教材に対して大きな不満を抱いていないと考えられる。Ⅲ「学生が授業に期待するもの」に関しては、「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」の平均値が4.44であり、高い満足度が確認された。この値は他の区分ともほぼ同程度であり、FCにおいても学生は授業内容に概ね満足していると判断できる。また、「この授業から得ることができたもの(Ⅲ1)」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」(63.1%)、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(57.5%)、「④学問的興味」(53.8%)が高い割合を示した。特に「新しい考え方・発想」が最も高いことは、芸術・文化分野の授業が学生に多様な価値観や視点との出会いを提供していることを示している。最後にⅣ「学部等による設問」では、「教室の大きさは適切だった(Ⅳ1)」は4.17、「受講者数は適切だった(Ⅳ2)」は4.27、「教室環境や設備は十分だった(Ⅳ3)」は4.43であり、いずれも高い評価を得ている。これらの結果から、授業環境や設備面についても学生は概ね満足していると判断できる。以上を総合すると、FCでは学生の学習意欲や授業満足度が全体平均と同程度かやや高い水準にあり、授業内容の明確さや教員の説明方法についても高い評価が得られている。また、配付資料やパワーポイント、映像教材などの視覚的教材が授業の価値を高める要素として認識されていることが特徴的である。

さらに担当教員の所見からは、学生発表、ワークショップ、演習的活動、展覧会企画、質疑応答など、学生が主体的に参加する授業形態が多く取り入れられていたことがうかがえる。教員からは「学生が主体的・創造的に取り組んだ」「新たな興味や視点の広がりが見られた」「安心して発言できる授業環境づくりが有効だった」といった記述が見られ、これらはアンケートにおいて「新しい考え方・発想」(63.1%)や「学問的興味」(53.8%)が高い割合を示した結果とも整合している。一方で、教員所見には、発表準備への事前指導、履修者数に応じた授業設計、授業外学習の促進、教材やスライドの提供方法の改善など、今後の課題も指摘されていた。これらは授業そのものの満足度が高いからこそ、さらなる学習効果の向上を目指した改善点として捉えることができる。

総じてFCは、芸術・文化を媒介として学生に新たな視点や価値観との出会いを提供するとともに、対話や発表、鑑賞、創作などを通じて主体的な学びを促す教育的機能を果たしていると考えられる。

4) 心身への着目(FD)

「心身への着目(FD)」は31科目でアンケートが実施され、回答者数は1,365名(履修者4,793名)であった。2024年度のアンケート実施科目数は30科目で回答者数は1,360名(履修者4,680名)であったので、アンケート回答率はほぼ横ばいであった。

「学生の学習姿勢（Ⅰ）」の「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」に関しては、5点と4点の合計が90%以上となっている科目が90%以上も占めており、平均値は4.36で2024年度の4.35を上回った。このカテゴリでは学生が積極的な姿勢で授業に取り組んだことが分かる。また、「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」について、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」や「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」は、5点と4点の合計が80%以上となっている科目が85%以上を占めており、教員の工夫や前年度からの改善などが反映されていると思われる（総合系の全カテゴリの中でⅡ1は全体で3番目、Ⅱ2は2番目の高さであった）。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」における学生の満足度も4.44と高いポイントをマークし（全カテゴリ中3番目）、「学部等による設問（Ⅳ）」に関しても各項目とも概ねまずまずの評価を得ることができた。昨年度、「この授業で改善すべき点だと思いますか（Ⅱ5）」で、他のカテゴリより割合の高かった「④動画等の映像視覚教材」は、昨年度の3.0%から3.8%に上がったことを来年度の課題としておきたい（とはいえ、2023年度は4.0%、2024年度は3.0%ということだったので、経年で見ると少しずつ改善していく方向にあるとも考えられる）。また、自由記述欄からは、教員との「双方向性」を強めたいという志向が強く感じられた。また、パワーポイントや動画について評価する声が多くあったが、それを授業内で学生に見せる時間と教員が実際に話す時間やタイミングについて工夫を求める声もあった。

担当教員の所見票からは、連続して担当している場合は昨年度からの流れを踏まえて工夫を凝らしている様子が伺え、対して真摯に向き合う姿勢が数多く見受けられた。

5) 自然への理解（FE）

「自然への理解（FE）」では28科目でアンケートが実施され、1,013名の回答があった。

学生の学習姿勢（Ⅰ）に関しては、「授業に積極的に参加した」の項目で多くの科目が肯定的な回答（「大いにそう思う」「そう思う」）の合計が90%を超える高い値を示した。一方で、「授業以外に学習した時間（1週間平均）」は、一部の科目で4時間を超える高い学習時間が見られたものの、全体的には1時間程度にとどまる科目が多く、引き続き授業外学習の促進が課題となっている。教員の授業改善に向けて（Ⅱ）では、「各回の授業内容は明確だった」「教員の伝え方はわかりやすかった」の項目において、大半の科目で肯定的な評価の合計が90%前後に達しており、丁寧な講義展開がなされていることが伺える。授業で良いと思った点（Ⅱ3）としては、「配付資料（レジュメ）」が最も多くの支持を集め、次いで「パワーポイント」や「動画等の映像視覚教材」が高く評価されており、視覚的で分かりやすい教材の活用が理解の助けとなっている。学生が授業に期待するもの（Ⅲ）における「授業を受けて満足した」の項目では、90%以上の高い満足度を記録する科目が複数あり、極めて良好な結果となった。授業から得たもの（Ⅲ1）としては、「分野に関する基本的な専門知識」や「自分にとって新しい考え方・発想」が多く選ばれており、学問的興味の喚起に大きく貢献している。今後は、「内容が文系には難しい」といった意見や、教室環境、音量調整への要望などの改善点を踏まえ、さらなる授業改善に努めていく。

6) 知識の現場 (FV)

非常に特徴的な結果が出ているのが本カテゴリ (知識の現場 (FV)) である。他の総合系科目と比較すると、大多数の設問項目で本カテゴリがもっとも良い数値を示している。

例えば、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」は 4.63 (他の総合系科目は 4.27~4.50)、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に) (Ⅰ2)」は 4.19 時間 (他の総合系科目は 1.12 時間~1.36 時間)、「この授業から得ることができたものがありますか (Ⅲ1)」のうち「①自分にとって新しい考え方・発想」は 91.3% (他の総合系科目は 59.0~68.5%)、「③自分で調べ考える姿勢」は 68.2% (他の総合系科目は 15.2~25.7%) といった具合である。本カテゴリの特徴である現場経験を含めた学びやプロジェクトベースの学びを少人数で実施していることなどが、これらの設問への回答にプラスの効果をもたらしていると思われる。担当教員の所見票の中には、「学生たちにとって新しい考え方や発想を得られる授業になっていたと思われる。今後も受講生にとって発見のある授業を行いたい。」というように、上記①を強く意識していたことがうかがわれるものもある。

他方で、「この授業から得ることができたものがありますか (Ⅲ1)」のうち「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」は 43.4% (他の総合系科目は 48.4~62.3%)、「④学問的興味」は 31.6% (他の総合系科目は 41.3~53.8%) となっているが、これは本カテゴリの中だけで対応すべきものというよりも、他の総合系科目や学部専門科目などとの連携の中で対応していくべきものであるようにも思われる。担当教員の所見票の中には、「授業内容をもとに、さらに学問的な関心を高め、自ら学ぶ姿勢を育成していきたい。」とするものもあり、全力りとしても、様々な形でこうした取り組みを支援していくことが重要であろう。

今後も本カテゴリの特徴を最大限に活かしつつ、受講生の知的好奇心を満たす他科目にうまく接合し、様々な専門知を学んだ学生が再び本カテゴリで協働しながらその知を実践するという好循環が生まれることを期待したい。

4. 今後の改善に向けて

今後の課題としては、昨年度の総評で課題として掲げたものと同様に、アンケート回収率の向上と授業以外の学習時間の確保を挙げることができる。

前者について、昨年度の総評では、教員・学生の双方によるアンケート制度への積極的・協力的姿勢が不可欠になるところ、アンケートに取り組むことで授業改善が促されるという実感を得ることが鍵になるのではないかとされた。これを受けて、今年度は、教員の所見票などをもとにして、他の教員にも参考になるような授業改善の工夫を抽出し、担当教員連絡会で披露するなどの取り組みを実施した。こうした取り組みは一回で効果がでるものではないため、今後も継続的に行なっていく必要があるように思われる。

後者について、昨年度の総評では、「知識の現場 (FV)」というカテゴリで良い結果が出ていることから、授業スタイルの違いを踏まえながらも、学生が自分たちで考えて試行錯誤し表現する機会を混ぜ込んでいく試みの有効性が検証されてもよいのではないかとされた。この点についての検証は十分に行うことができなかったが、まずは前者と同様に、担当教員連絡会などを通じて、授業以外の学習時間確保に取り組んでいる教員の様々な工夫を共有するといった対応を講じていくことが有益ではないかと思われる。

4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

1. 科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、原則として全科目で実施した。ただし、連続性のある科目（例：「～語 A・B」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2025 年度の全学共通科目・言語系科目のアンケート対象科目数は 2,105（春学期 868、秋学期 1,237）、そのうち回答者 5 名以上のアンケート実施科目数は 1,679（春学期 712、秋学期 967）であった。アンケート実施科目の延べ履修者は 35,631 人で、うち回答者数は 24,564 人、回答率は 68.9%であった。他の学部等に比較すると回答率は高いが、前年度に比べ「回答率」は 2%減となっている。所見執筆状況であるが対象科目数 1,679 科目の内、1,507 科目から提出があり、89.8%と非常に高い提出率となっている。「設問項目別平均値」を見ると、全学共通科目・言語系科目の授業や教員の授業運営に対する評価の高さがよくわかる。学生の学修姿勢は、授業への参加度は高いものの授業外学修時間は、例年同様に低い。「この授業を通して向上した能力」について、言語 A（英語）では「話す力」が他の能力と比べ高かった。一方言語 B では「読む力」、「書く力」が多くなっている。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

以下のとおり、研究室ごとに総評をまとめた。

<英語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

1) 肯定的評価・意見として多い内容

多くの教員は、学生が授業に積極的に参加し、授業を通じて学修スキルや英語運用能力の向上を実感していたことを肯定的に受け止めている。また、授業内容や教材・資料について「分かりやすい」とする評価も多く、教員の授業準備への意欲向上につながっていることがうかがえた。

特に少人数で行われる Discussion では、学生同士が協力的に学ぶ温かい学修環境が形成されたとの意見が見られた。さらに、Reading & Writing では「書く力」、Presentation では英語による「プレゼンテーション力」の向上が指摘され、上級英語や自由科目では「協働的に学修する力」の向上を評価する声もあった。

2) 否定的評価・意見として多い内容

一方で、評価方法の説明が不明瞭であった点や、宿題量の多寡について学生から指摘が見られた。また、日本語と英語の使用比率についても意見が寄せられており、今後の授業運営上の課題として認識されている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

教員からは、授業内外の両面で継続的な改善を目指す姿勢が示された。特に、学生の英語力や学修状況に応じた柔軟な対応や、学修支援体制の充実を図る方針が多く見られた。

1) 授業内での改善

授業内では、学生一人一人への丁寧なフィードバックを通して学修への自信を育成するとともに、英語力の高い学生には発展的な課題を提供する方針が示された。また、英語力に不安を抱える学生に対しては、話す速度の調整や補助教材の活用など、理解しやすい授業運営を目指す必要性が指摘された。

さらに、板書や資料提示の工夫による視覚的な分かりやすさの向上や、授業・課題における AI ツールの適切な使用方法について、学生へ十分に説明する必要性も認識されている。

2) 授業外での改善

授業外では、学生の負担に配慮した宿題量の調整や、軽めの課題を継続的に課す工夫が提案された。また、授業資料を LMS 上で共有し、学生が復習や自主学修に活用できるよう支援する方針も示されており、授業内外を通じた継続的な学修環境の整備を目指す姿勢がうかがえた。

<ドイツ語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2025 年度は新カリキュラムが導入されて二年目となり、ドイツ語に関しては、全ての科目において旧カリキュラムからの移行が完成する年度にあたる。今回のアンケートではタイプやレベルも様々な科目の履修者からの回答となったが、総合的にみて、授業の内容や教員の伝え方、そして満足度に関する点において、おおむね高い評価が得られていた。

教員の所見の欄においては、自由科目の場合、履修する学生のドイツ語学修歴が異なることから、授業内ではどの程度文法の説明が必要なのかという点について、一種の迷いや教員側の不安がうかがえるものの、学生側の授業への積極的な参加によって授業運営自体はうまくいっていた様子が伺えた。これは、2024 年度以降実施している新カリキュラムにおけるコンセプトに付随し、ペアワークやグループワークなどのアクティブラーニングの要素を授業内の活動に積極的に取り入れていたことによるものと思われる。実際、学生のコメントでも、周囲との会話やグループワークを通してコミュニケーション力がついたこと、また質問がしやすい環境、説明が分かりやすいことなどの授業の雰囲気に関する肯定的な記述がみられた。

また、教科書のほかに授業内で活用する資料について、テーマに関する原文資料や音楽、さらには YouTube のチャンネルを含めた様々なメディアを使用するなど、各教員での工夫があったことが分かった。特にドイツ語圏の文化や社会、政治など新しい情報をテーマに扱う場合、文字資料のみではなく画像や映像資料を用いることは、学修効果は当然として、学生の更なる興味を引くことに繋がっていたと思われる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2024 年度のアンケートでは、統一教科書に対する不満（2 冊購入するものの、2 冊目は授業内で扱う部分が少ないこと、全体的に授業で扱われない部分（削除となる部分）があること）があったが、出版社の厚意によって 2 冊目の抜粋版を 1 冊目とセットで販売していただくことが可能となり、2025 年度にはその問題を解消することが可能となった。また、研

研究室から配布している進捗案についても見直しを行った。そのためか、アンケートでは教科書や進捗に関する否定的な意見は特になく、むしろ、ちょうどよいペースだったという声もみられた。

また、教員の所見の記述からは、文法の説明の時間が足りなかったこと、リスニングの指導が不足していたこと、パワーポイントの活用、筆記の課題や宿題と比べてプレゼンテーションへのフィードバックが不足していたことなど、様々な観点から、担当者自身の授業運営に関する振り返りがみられた。

授業の時間においても授業の回数においても、限られた枠組みの中で、何をどの程度取り上げるかという問題は、必修科目であっても自由科目であっても、教員は必ず悩むことだと思われる。上記でも触れた通り、必修科目においては研究室側から「進捗案」を各科目担当者に配布しているが、毎年見直しと調整の必要があることが再確認できた。また、配布の際には、学修項目に関しても、どの部分に重点を置いてほしいかをしっかり伝達し、科目担当者間で認識を共有することも大切であろう。また、これまでは新カリキュラムに関するFDを研究室では実施してきたが、教員によって抱える課題や悩みが異なることから、各科目担当者にFDで取り上げてほしいテーマを聞き取りし、設定することもできるだろう。今後も絶えず変わっていく学生のニーズを察知しつつ、質の高いドイツ語教育を提供できるよう研究室全体で努めたい。

<フランス語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

新カリキュラム導入2年目となる本年度も、アンケート結果から、必修科目・自由科目のいずれにおいても、初年度に引き続き概ね高い評価が得られていることが確認された。本カリキュラムは定着段階にあり、その着実な成果が現れているといえる。

担当教員の所見からは、質問項目Ⅱ2における授業の分かりやすさや、質問項目Ⅲ3における授業への満足度において高い評価が得られたことから、授業への手応えがうかがえた。また、所見には、新カリキュラムの自由科目の授業内容と目的を理解した上で、各教員が授業を工夫し、学生の理解や関心を深めるための多様な取り組みを行っていることも記されていた。例えば、「フランス語総合」科目では、仏検や DELF・DALF 対策を取り入れた授業に加え、教科書だけでなく資料も活用しながら、フランス文化理解を促す工夫が行われており、学生アンケートの結果にもその教育効果が表れていることが確認された。

多くの教員が継続学修を課題として挙げており、フランス語学修へのモチベーション維持のためにクイズを出したり、フランス文化の話を授業に取り入れたりする工夫が行われていることも記されていた。また、学生にフランス語を習得した先の展望を示す必要性があることも指摘されていた。これはフランス語教育研究室的な目的とも一致しており、今後さらにその方向性を明確化していく必要があると考えられる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2024年度の「フランス語B」においては、授業の進捗が速いという学生の声アンケートに一部見られたが、2025年度のアンケートでは、授業の進捗に関する意見はほとんど見られなかった。これは、新カリキュラム導入2年目を迎え、担当教員が授業スケジュールの見

通しを立てやすくなり、より計画的に授業を進められるようになったことによるものと考えられる。こうした点からも、新カリキュラムが徐々に定着しつつあることがうかがえる。

2025 年度には、「フランス語 1・2」クラスにおける評価方法について、担当者連絡会で議題に取り上げられた。スピーキングやライティング能力を養成するアウトプットクラスにおいて、特にネイティブではない教員から、より明確な評価方法の作成を求める声があがった。そのため、研究室においてテスト問題を作成するとともに、解答例をより充実させ、評価基準についても一層明確化を図った。さらに、出題方法などを文書化し、すべての教員がより分かりやすく利用できる資料を作成したうえで、2026 年度春学期の開始時に配布した。テスト問題や評価基準については、今後も教員の意見を取り入れながら、継続的に改善を行っていききたい。

また、「フランス語 1・2」および「フランス語 A・B」で使用している教科書『サ・マルシュ？』についても、今後改訂を予定しており、授業内容のさらなる充実を図っていききたい。今後も、より効果的なフランス語教育の実践を目指すために、教員間で連携を図っていく。

<スペイン語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

変更から使用 4 年目となった 1 年次必修科目のテキストは、担当者連絡会でいただいたご意見を参考に毎年教案の見直しを行っていることもあり、教員側は同テキストを用いた授業の展開にはほぼ問題なく対応できていると考えられる。しかし、これまでも述べてきたように本テキストは元々スペインで作成されたテキストの日本語版であるが故に、学生側からはこうしたテキストを使用することに対する疑問や使いづらさ、わかりにくさ、リスニング問題の速度に関する指摘があり、これらについては今回も同様であった。ただ、これまでよりこのような意見は少なくなったように見受けられる。これは、担当の先生方による、テキストの内容を補う各種教材（プリントやプレゼンテーションソフトを用いたファイル、Canvas LMS の活用など）を用いた工夫によるところが大きいと考える。あわせて、スペイン語教育研究室で作成している補助教材（Suplemento）が役に立ったという意見も複数寄せられ、履修者が補助教材を十分活用している様子がうかがえる。2024 年度の大幅改訂に続き、それよりも規模は小さいながらも 2025 年度の版でも改訂を行って学生には Canvas LMS 上で PDF ファイルとして配布するとともに、補助教材の練習問題部分だけ抜き出して編集したファイルを作成して担当の先生方に提供し、授業時に印刷教材として学生が教室内で手を使って問題に取り組む機会を持てるようにした。一方、昨年度春学期の担当者連絡会で、学生が教室内で情報機器を用いて語彙や文の意味を調べてしまうケースがあることが報告され、秋学期からはアプリ等ではなく分からない語彙は辞書で調べるよう強く推奨するようにしたが、これに関する学生からの不満の声もあった。授業運営や内容については、担当者によって多少の反応の違いはあるものの、概ね良好な反応が得られており、多くのクラスで継続学修への意欲も示されている。昨年度に引き続き、音楽や歌、映像資料等を活用してモチベーションを刺激する工夫が行われている授業もあった。授業から得られたものとして、基本的な専門知識、学問的興味という回答が多く、スペイン語のベースを作る授業としては十分目的を達成できているのではないかと考えられる。

自由科目については、より強い興味関心を持って選択しているケースが一般的であると

考えられるため、コメントや評価もポジティブなものが多かった。8割から9割の履修者が継続学修への意欲を示しているケースがほとんどである。言語だけではなく文化も学べてよかった、発音の指導をしてくれたのが効果的だった、楽しく学ぶことができたなどという自由記述が見られた。また、必修科目同様、授業から得られたものとして、基本的な専門知識、学問的興味という回答が多くなっている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

満足しているという評価が多く、また積極的に参加したという回答の割合も高かったので、全体的には今後も現在の方針を踏襲していく方向が示されている。例年通り、担当教員によって問題意識が異なる点はあるものの、アンケートの回答を通じて学生から得られた反応を真摯に受け止め、今後の授業に活かしていきたいという姿勢はいずれも共通している。また、できる限りタイムリーに学生の要望に対応できるようにするため、アンケートの場のみならず、授業期間中にも意見や感想を直接伝えてほしいという担当者からの希望もあった。やや気になる点としてあげられるのは、昨年度に引き続き、学生間あるいはクラス間での取り組み具合や反応の差に関するコメントが複数見られたことである。学修意欲にばらつきの多いクラスであった、学生間で学修意欲に差が大きいクラスだった、同一科目の評価で年度やクラスごとに主観的な色合いの濃い評価の差異が認められる、といった意見があった。前回も書いたことだが、学生それぞれに到達目標や意欲の違いがあり、各クラスの個性があるので、同じ素材を同様の進度で進めても、反応に相違が生じるのは致し方ないとも言えるものの、学修意欲の刺激と自律学修を進める環境の提供は引き続き望まれる。

授業以外の学修時間が多くの場合、週あたり2時間弱（科目によっては1時間に満たないという回答もあった）であることが示されており、この点について担当者からも指摘があった。新たに学ぶ言語学修の時間としてこの程度の時間では十分とは言えないので、担当教員から自学自習を促進するため、適切な分量や難易度の課題を課すよう依頼するなどの手段を考えたい。

3-1で学生から不満があったと述べた授業中のアプリの使用については、2026年度は年度当初から特に教員から指示のない限り授業中のスマホ使用は禁止とし、紙の辞書を使って語彙を調べる、あるいは、実際に手を使って問題を解くなど、電子機器を使わない形での作業を通して言語学修を進める方策を講じたので、担当者連絡会などを通じて学生の反応を確認する予定である。

最後に、一部、所見や今後の方針に記述がなかった担当者が見られたので、事情をうかがいつつ、次回以降は意見を書いていただけるよう促したい。

<中国語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

アンケート結果では、「授業内容の明確さ」、「教員の説明のわかりやすさ」、「質問対応・フィードバック」など、多くの項目で高い評価が得られている。各授業担当教員の所見を総合しても、2024年度の新カリキュラム導入初年度を経て、授業運営は全体として安定しつつあり、担当者ごとの工夫が一定の成果を上げていると考える。

「中国語1・2」では、ペアワーク、発音練習、作文発表などを通じて、学生の表現力や運

用力を高める授業実践が行われている。担当教員の所見からも、アウトプット中心の活動により、単なる知識の習得にとどまらず、実際に中国語を使って身につける方向性が共有されていることが確認できる。

「中国語 A・B」では、文法・読解・聴解を中心に基礎力の定着を図り、Canvas LMS、パワーポイント、小テスト、副教材等を活用して、理解と復習を支援する取り組みが見られる。統一テストのリスニング得点力も旧カリキュラム時に比べて向上しており、「読む・聞く」を中心とする科目として一定の役割を果たしている。

自由科目では、履修者の中国語・中国文化への関心の高さに加え、各担当教員が発展的でテーマ性のある内容を展開し、説明方法、実践的練習、配布資料等にも配慮していることが、高い満足度や学修継続意欲を支えている。

課題としては、1 年次必修科目における学修継続意欲への接続、授業外学修の促進、共通テキストに含まれる未習表現や文法事項への補足説明などが確認された。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

1 年次必修科目である「中国語 1・2」および「中国語 A・B」については、基礎力の定着と実践力の育成を両立させることを引き続き重視する。担当教員による改善の方針の所見では、発音練習、会話練習、作文、小テスト、Canvas LMS の活用、復習しやすい資料の提示などを通じて、学生の理解を支援する方向性が概ね共有されている。今後も、各科目の特徴をふまえ、授業内活動と授業外学修をつなぐ工夫を継続することが望ましい。

1 年次の共通テキストについては、授業全体の進度や統一的な到達目標を意識しつつ、学生がつまずきやすいポイントを必要に応じて補足することが求められる。すでに多くの担当者が、スライド、プリント、副教材等を活用して補助的説明を行っており、今後も無理のない範囲で内容理解を支える工夫を継続したい。

また、授業満足度の高さを学修継続意欲へ結びつけるため、中国語の実用性や中国語圏の社会・文化に触れる機会などを設け、基礎学修が自由科目の履修へ自然につながるよう働きかけたい。自由科目については、発展的な学修へ接続する場として、各領域のテーマ性を活かした授業を継続する。

前年度の課題で挙げられた授業スライドの共有については、著作権上の配慮をふまえつつ、掲載範囲や共有方法について研究室として改めて検討し、可能な範囲で共通の運用方針を示せるよう準備を進めたい。また、所見未記入の科目も残るため、入力 of 時期・方法・意義を周知し、記入を促していきたい。

<朝鮮語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

朝鮮語の場合、必修科目と自由科目で共通して言えるのは、各担当教員が親切で丁寧に指導しているという点である。学生に寄り添った授業運営を心掛け、先生方が予習・復習用に配付する資料がとても分かりやすく、役に立ったという意見、また集中力を高めるために授業中に短い映像や歌を流してくれる点もメリハリがあってよかったという意見も多かった。先生方の所見から共通して言える点は、授業を受けてくれた学生たちからのアンケートに真摯に向き合う姿勢である。「スピードが速くてついていけない」「学修内容が多すぎて難し

い」などの批判についても、決められたシラバスの分量を終わらせないといけない教員側の言い分ではなく、アンケートに誠実に答えてくれた学生ひとり一人の率直な意見を真摯に受け止め、より分かりやすく楽しい授業を学生たちに届けるにはどのような努力や工夫をすればよいかという今後の改善に向けた前向きな姿勢が込められている所見が多かった。また、「いつも優しく教えてくれてありがとう」「分かりやすい授業だった」「これからも朝鮮語の授業を続けたい」という肯定的な意見については、学生たちからの温かい言葉、励ましの言葉に感謝、感動している様子もうかがえた。学生からの厳しい批判についても、温かい言葉についても、今後のより良い授業のための貴重な意見として捉えている先生方を朝鮮語教育研究室としても全力でサポートしていく所存である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2024 年度の課題としては、必修科目の場合、担当教員によって進度の進め方や課題・試験などの情報共有についてクラス間での差が指摘されていたが、2025 年度はクラス間で情報格差がないように、朝鮮語教育研究室で担当者会議などを通して「周知の内容や方法について」共通した認識を持って授業内で学生に情報提供できるよう努力した結果、大きな改善が見られた。しかし、2025 年度の課題として浮き彫りになったのは、授業時間外の学修時間である。担当教員によってばらつきはあるが、全体的に授業外の学修時間については現在の 1.5～2 倍程度の学修時間は必要だろうと判断される。今後の授業外の学修時間確保については、クラス間、つまり担当教員によって差が生じないよう、どのような内容を、どれぐらいの分量を課題として出すかについては、朝鮮語教育研究室で「基本的な方針」を定めて各授業担当教員にお願いする方針である。課題のフィードバックについては担当教員の業務量や負担、現実的に実現可能かどうかについても議論を重ねて決めていく予定である。

2024 年度の課題としては、自由科目の場合、学生と教員間のミス・コミュニケーションによる信頼感や学修意欲の低下などが主な課題として挙げられていたが、この点については、より学修者に寄り添った授業運営を心掛けた結果、かなりの改善が見られる。しかし、自由科目の場合、より深い言語の理解のためには韓国の「文化や社会」に関する背景知識などを授業内で紹介していく必要があるように見られる。今後、自由科目では、より積極的に「文化や社会」に関する知識を語学の授業内で取り入れる方向での授業運営を心掛けたい。

<ロシア語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

今年度のアンケート対象科目は 3 科目、回答者数は 23 名にとどまる。そのため、アンケートのデータとしては他の言語に比べると不完全なものかもしれないが、「Ⅲ3 この授業を受けて満足した」の設問に関し、評価点が 4.70 と初修言語の平均点を上回っており、高評価を得られた。オンラインで実施した「入門ロシア語」であるが、課題に対する科目担当者によるフィードバックが丁寧で手厚かった、毎回発音する機会があったなど、オンライン授業でありながらも履修者とのコミュニケーションは達成できていたようである。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

必修と「入門ロシア語」を合わせて、設問の「Ⅳ4 この授業を通して向上したものは何

ですか」に対し、「話す力」を選択した割合が 8.7%にとどまっている。他の初修言語の平均点が 49.7%であるから、圧倒的に少ないといえる。授業が文法中心の座学となるのはある程度は避けられない点もあるが、発音や会話の練習が授業内や課題でより多くできるような工夫を検討していきたい。

授業内でアニメを紹介する、またロシアの生活様式や文化に関する解説があったことをあげるコメントが複数見られた。履修者の言語以外のロシアそのものへの関心も一定程度あることが確認できたので、授業内でも引き続き意識的に言語以外の文化的側面の照会を行い、ロシアそのものに対する関心も高めていきたい。

<諸言語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

今回のアンケートの対象となった諸言語の内、「入門タガログ語」、「入門ベトナム語」、「入門タイ語」は 2024 年度より開設された。2 年目にあたる今年度であるが、設問の「I2 授業以外に学修した時間」に関しては 1.21 時間と、初修外国語の平均である 1.79 時間を大きく下回っている。必修科目ではないというのがその主たる理由であろうが、授業外学修の時間をどのように増やしていくかは課題である。履修者のコメントからは、これら諸言語に触れる機会があったこと自体には満足していることが窺われる。

「日本手話」の科目においては、どのレベルでも多くの学生が積極的に授業に参加し、言語としての手話を通して、学びコミュニケーションする楽しさを得ている。コラムを通して手話のみならず、ろう者の文化や歴史も学び理解を深めており、授業に対する満足度も非常に高い。継続学修への意欲も高い。科目担当者による熱心な指導のおかげである。ゲストスピーカーについて言及するコメントも散見され、ゲストスピーカーを有効に活用されていることも確認できた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からの率直な意見を受け、シラバスに則った評価方法、授業の運営に心掛けたい。同時に見やすい板書の工夫やレジュメの配付に留意し、学修環境の整備に気を配っていく。引き続き、学生の興味に応じた映像視覚教材を使用するなど、授業の運営にも工夫を凝らしたい。

「日本手話」では動画等の映像視覚教材の更新を順次進めていく。手話力が足りない学生とは対話をしながら、自主学修を勧めるなどフォローの仕方も工夫していきたい。

<日本語教育研究センター>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2025年度はRSPプログラム生が履修する科目を中心に授業評価アンケートを実施した。各教員が各プログラムと授業目標に照らして、授業の方法、学生が授業で得られたもの等を確認することができた。また、時間外での学修を確保して日本語学修が進んでいることが確認できた。初級レベルはペアワークやグループワークを通じて言語運用力を高められたこと、中級レベルは既習の学修項目の復習を効果的に取り入れつつ、履修学生の学修動機を維持、または向上させるための工夫を今後の課題としていること、NEXUS日本語は、学部生活に向

け、複数のアプローチで日本語力を高める取り組みを行ったことが読み取れる。

学修内容が多い中で、学修効果をあげていくために、活動の目的や授業内容の確認を随時行う重要性を再認識したというコメントのほか、欠席した学生がその後の授業についていけるよう、日ごろから自律学修を促していくことの重要性を感じたというコメントがあった。また、授業内容や教員の伝え方についておおむね肯定的な評価を得た一方で、一部の学生から教材の使いづらさ、記述のわかりにくさに関する指摘があった。これらについては、今後、教材の使用方法や補足説明を工夫したいといったコメントがあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

上述の振り返りをふまえると、改善に向けた取り組みは2点考えられる。1つは教材・教具関係、もう1つは授業運営についてである。教材・教具については、レジメの配付やパワーポイントを活用した授業を行うことが内容理解に役立ったというコメントがある一方で、少数ではあるが、改善を期待する声も出ていた。具体的にどのような点について改善が期待されているのか、確認をしながら意見交換を行い、改善の取り組みにつなげていきたい。また、授業運営については、学修効果をあげるための授業内での活動の目的や内容の確認と自律学修の支援が挙げられる。これらは今回授業評価アンケートの対象とした科目以外でも想定される課題であるため、日々の教員間のコミュニケーションに加え、FDの機会を活用するなどして、こういったニーズに応える工夫について意見交換を行っていきたい。

4. 今後の改善に向けて

2025年度は言語Aの新カリキュラム完成と言語Bにおける新カリキュラムの始動から2年目にあたる。アンケートからは、言語Aと言語Bともに、新カリキュラムが安定的に展開され、履修者から高い評価が得られた科目が多いことが確認できた。アンケートの回答率および科目担当者の所見提出の割合も他と比較して高く、アンケート実施に関する協力体制が全カリの言語では確立されている点は疑いのないところである。

アンケートは例年学期末に実施されるため、アンケート内容を反映した改善が翌年度に速やかに実施されることは、同一テキスト、同一シラバスの科目が多い言語系科目では実は容易ではない。しかしスペイン語教育研究室では今回のアンケートで指摘のあった、授業中におけるアプリの使用に関し、2026年度の学期開始までに研究室として統一の基準を作成するなど、迅速な対応が見られた。アンケートの指摘を反映した改善を速やかに実施できるかは今後の課題となる。言語系科目は少人数のクラス編成で、双方向による授業形式が多いため、科目担当者と履修者との間で意思疎通に支障が生じやすい。今回のアンケートでも、個別のクラスにおいて少なからぬ問題が指摘されている。これらの結果を真摯に受け止め、見直し、将来のより良いカリキュラム策定のヒントにしていきたい。

全学共通科目であることから、言語A、言語Bともに言語を超えて共通の目標を掲げ、各言語で統一シラバスのもと運営していくことになる。各言語の特徴や担当教員の個性は活かしつつも、すべての学生がどの授業を受けても同じ基礎力と複文化の視座を身につけられるよう、教員一人ひとりの意識改革も行いながら、安定した授業を提供できるよう努めていきたい。

4-15 学校・社会教育講座

1. 科目選定方針とねらい

毎年度、学校・社会教育講座（以下講座）の授業評価アンケートは、教職課程に関しては原則として講義科目を対象として1教員1科目を、そして学芸員課程、司書課程および社会教育主事課程に関しては各課程で重点を置いている科目を選定し、数年にわたって幅広い科目を網羅できるように科目選定を行っている。また、履修者が5名以下の科目については、実施見送りとしている。この科目選定方針に従い、2025年度授業評価アンケート対象科目には77科目（春学期40科目、秋学期37科目）を選定し、実際にアンケート実施に至ったのは59科目（春学期34科目、秋学期25科目）であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2025年度の講座における授業評価アンケート実施科目59科目のべ履修者総数は2,470名、のべ回答者数は1,097名、回答率は44.4%であった。2024年度は実施科目49科目で回答率が44.2%だったので、ほぼ同様の結果だったといえる。2025年度の全学の回答率は35.7%と前年の40.2%に比べて落ち込んでいたが、講座ではこうした下落はみられなかった。回答者の学年は、1年生319名、2年生413名、3年生302名、4年生50名、その他（科目等履修生・大学院生）13名であった。全学や昨年度の講座の集計では1年生から4年生にかけて単調に減少していたのに対し、2025年度の講座では2年生にピークが来ている点がやや異なっている。このような違いが出た原因は不明である。

I「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」の平均値は4.41であり、前回（4.40）とほぼ変わらなかった。これは全学・全科目の平均値（4.43）ともほぼ同じ水準とみてよいだろう。全学的には、授業規模が大きくなるにつれてこの数字は下がる傾向にあるが、講座では50名以下4.40に対して51～100名4.47とむしろ高かった。ただし、講座では授業規模が小さい科目が多く、51～100名の授業は2科目のみだったため、ここから何らかの考察を行うことは難しい。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」については、平均1.08時間で、前回の1.11時間をわずかに下回ったが、ほぼ横ばいであった。全学・全科目の1.50時間と比べると少ないが、平均1時間を超える予習・復習時間を確保している。学年別でみると、3年生が1.27時間で最も多く、以下4年生1.10時間、2年生1.02時間、1年生0.93時間と、上位学年の方が下位学年よりも多くの時間を授業以外の学習に当てている。全学的な傾向としては1年生が最も多いため、講座の傾向はやや特徴的だといえる。下位学年のうちは語学や専攻の必修科目を優先していたが、上位学年になると余裕をもって講座科目に取り組んでいるという様子が見える。

II「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」が平均値4.57、「教員の伝え方はわかりやすかった」が平均値4.51であり、いずれも昨年度（それぞれ4.57、4.56）と同水準であった。例年どおり、履修者からの高い評価が得られたとみてよいだろう。よいと思った点として評価されているものは、「配付資料（授業のレジュメなど）」が67.5%、「パワーポイント」が48.0%となっている。自由記述欄をみると、授業で取り上げるテーマの設定から授業の進め方や雰囲気づくり、教材の形式や内容に至るまで、多岐にわたる教員の工夫がみられ、学生に評価されていることがわかる。一方、「この授業で改善すべきだ

と思った点がありますか」では、配付資料や板書などいずれの項目も 10%未満にとどまっており、「上記にあてはまるものがない」が 65.4%を占めた。各教員が安定して効果的な教材準備と授業運営を行っているものと推察できる。

Ⅲの「この授業を受けて満足した」については 4.55 であり、これも昨年度（4.56）とほぼ同じ高い値であった。課程別にみると教職課程が 4.62 ともっとも高いが、他の三課程や共通科目も 4.45 以上の高い水準である。「この授業から得ることができたものがありますか」に対しては、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 73.7%、「①自分にとって新しい考え方・発想」が 60.6%と高くなっている。昨年度まだ伸びる余地があると指摘した「③自分で調べ考える姿勢」は 22.1%から 28.2%に伸びたが、「④学問的興味」は 37.8%から 35.1%とやや減少した。課程別にみると、①で教職課程（69.0%）と社会教育主事課程（65.2%）、②で学芸員課程（84.8%）と司書課程（82.3%）が、全学と比較しても高かった。一方、③で学芸員課程が 15.2%と低い数字に留まっており、授業がやや一方通行になっている可能性が考えられる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が、履修者の高い評価に安堵・感謝しながら、履修者からの質問や意見に丁寧に応答している。指摘内容は、スライドの文字数や見やすさといった教材に関するもの、シラバスへの記載内容に関するもの、板書や進行速度など授業の進め方に関するもの、オンラインの活用に関するものなど多岐にわたっていた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からの指摘事項は改善点の提案といえるものが中心で、教員側からは、次年度から改善に取り組むという前向きな反応が多くみられた。

4. 今後の改善に向けて

例年と同様に、講座で提供している授業に関しては、履修者の期待や求める内容に十分応えられているといってよいだろう。アンケート結果のデータは 2026 年 4 月 23 日にメールで講座会議構成教員と共有し、6 月 3 日の講座会議で意見を募った。昨年の講座会議では、担当教員の所見が記入されていない 9 科目について意見交換がされていたが、今年は 12 科目とさらに増加する結果となった。記入を強制、義務化するわけにはいかないが、講座教務担当より各課程主任に対して改めて記入を促す必要があるだろう。2026 年度も、履修者の高い学習意欲を維持できる授業の模索、新たな発見や着想を得られるような授業開発を専任・兼任を問わず教員間で促していきたい。

5. 2025 年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター

TL (Teaching & Learning) 部会長 西川 亮

1. はじめに

本学の「学生による授業評価アンケート」は、大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部・情報企画室（メディアセンター）の協力のもとで実施している。アンケートに回答してくださった学生のみなさんや、所見の執筆にあたった教員各位を始めとして、本件に関わる全てのみなさまに感謝を申し上げたい。以下では、アンケート結果と各学部等総評を踏まえて、多くの学部等に共通すると思われる事項、および今後の授業改善において重要になるとと思われる事項をまとめたい。

2. 学部等別の回答率

2025 年度は 3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則によってアンケートが実施された年であり、前年度と比較してアンケート実施科目とその履修者数が大幅に増加したため、前年度との比較においてはこの点に留意する必要がある。結果、2025 年度の回答率は 35.7%であり、2024 年度の 40.2%から 4.5%減少となった。前回の 3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則年であった 2022 年度回答率（34.2%）と比較すると微増である。各学部等の数値をみると、ほぼ横ばいの学部（文・理・社・営・異・全カリ総合・講座）、大幅減の学部（済・コミ福・現心）、減の学部（GLAP・スポ）、やや減の学部（法・観・全カリ言語）などの相違がある。その原因として、各学部等の総評では、上位学年の回答率の低さや少人数科目における回答率の低さ（済）や Web 方式による実施の周知不十分（営）などが指摘されている。学部によって学生数や科目特性などに差異はあるものの、過去 10 年間の各学部別回答率を全学回答率と比較すると、回答率の低い傾向にある学部がやや固定化されてきている点は懸念事項である。

改めて、各学部等においてアンケートを実施する目的を明確にする科目選定方針が依然として重要である。今後とも、各学部等が科目選定方針と周知方法の検討を重ね、回答率向上のための方策をご検討いただきたい。なお、大学教育開発・支援センターでは、①実施要領送付時に「学生から多くの回答を得るためのヒント」を共有、②実施要領「学生へのアナウンスについて」を当日の流れがわかるような体裁で共有（色紙）、③教務部発行の「教務に関するご案内」にアンケート実施について、具体的な記載をして共有（原則として授業 13 回目または 14 回目に実施、所要時間 10～15 分程度）、④教育改革推進会議資料に「原則として実施期間中の授業内で実施する」ことをあらためて明示するなど、継続的な改善の取り組みを続けている。

3. 考えさせる授業の展開に向けて

「Ⅰ1 この授業に積極的に参加した」、「Ⅱ1 各回の授業内容は明確だった」、「Ⅱ2 教員の伝え方はわかりやすかった」、「Ⅲ3 この授業を受けて満足した」は、ほぼ全ての学部等で 4.3 を上回り、昨年度までと同様に高い評価を維持している。その一方で、「Ⅲ1 この授業

から得ることができたもの」において、「自分で調べ考える姿勢」は多くの学部等で3割を下回る結果となっている。また、昨年度指摘された授業外学習時間（Ⅱ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に））の平均値については、昨年度に比較して+0.66（法）、+0.28（異）、+0.18（全カリ総合）、+0.16（現心）など、ある程度良化する傾向が確認され、「各教員が授業以外の学習時間の確保に配慮している」（済）や「授業外での学習時間を促す工夫が各教員でなされた」（全カリ総合）のように各教員の工夫が改善に繋がったとする評価がある。一方で、「学生の授業外の学習を促すことが課題である」（文）、「下止まりの状態である」（理）、「授業時間外にも学習意欲を持たせる課題設定が引き続きの検討課題」（スポ）という認識を示す学部等もあった。今後は、授業時間外における主体的な学びの意欲を掻き立てるような方法について、各学部FD等での検討が期待される。

4. シラバスのあり方

複数の学部等総評で指摘され、データ上でも傾向として認められるのは、「Ⅱ3 この授業でよいと思った点」、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点」における「シラバス」の比率の低さである。Ⅱ3は異文化とGLAP以外で10%を下回っており、Ⅱ5は全学部等で10%を下回った。これに対して、「学生がシラバスの内容に細かく注意を向けていないという可能性…（中略）…各教員はシラバスの内容を所与のものとするのではなく、学期開始の時点で授業のルールや目的などを丁寧に学生に説明することが求められる」（文）や「シラバスの改善を示唆しているのか、それとも学生がシラバス自体に無関心なのか」（済）、「大学側が授業における「契約」としてシラバスを重視している点とは温度差が見受けられる」（全カリ総合）のように、シラバスのあり方に対する困惑の声が一定程度確認された。その一方で、「学生からシラバスとの齟齬が指摘された」（文）ことも記されており、シラバスのあり方については今後、全学的に検討が必要であると考えられる。

5. おわりに

全体としては、学生の各授業に対する満足度は高いほか、授業評価アンケートへの学生の回答に対しても多くの教員が肯定的に受け止め、具体的な改善策が継続的に検討されるなど、授業評価アンケート制度の意義は十分に達成できている。しかし、AI技術の進展をはじめとし、学生の学修環境は日々変化しつつあり、授業の課題も残されている。各学部等では本報告書を活用して、さらなる授業の改善に努めていただきたい。

6. 2025 年度集計データ（資料編）

6-1 回答者数・回答率

延べ回答者数 80,057 名

表1 学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	23,720	7,917	33.4%
経済学部	22,126	5,903	26.7%
理学部	8,409	3,480	41.4%
社会学部	17,674	4,125	23.3%
法学部	12,656	3,245	25.6%
経営学部	13,121	1,730	13.2%
異文化コミュニケーション学部	4,646	2,156	46.4%
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	615	317	51.5%
観光学部	15,598	4,420	28.3%
コミュニティ福祉学部	10,164	3,900	38.4%
現代心理学部	8,368	1,852	22.1%
スポーツウエルネス学部	4,163	1,974	47.4%
全学共通キャリア運営センター・総合系科目	44,617	13,377	30.0%
全学共通キャリア運営センター・言語系科目	35,631	24,564	68.9%
学校・社会教育講座	2,470	1,097	44.4%
合 計	223,978	80,057	35.7%

注1) 履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者

注2) 学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表2 学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1 年	2 年	3 年	4 年	その他	合計
文学部	2,151	2,614	2,082	1,015	55	7,917
経済学部	2,839	1,329	1,136	579	20	5,903
理学部	1,695	1,043	609	111	22	3,480
社会学部	1,599	1,308	749	441	28	4,125
法学部	1,419	984	540	242	60	3,245
経営学部	676	404	320	247	83	1,730
異文化コミュニケーション学部	1,296	443	259	91	67	2,156
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	87	94	42	24	70	317
観光学部	1,379	1,373	1,173	480	15	4,420
コミュニティ福祉学部	1,707	1,043	921	223	6	3,900
現代心理学部	392	757	518	179	6	1,852
スポーツウエルネス学部	963	605	348	53	5	1,974
全学共通キャリア運営センター・総合系科目	7,026	3,256	1,740	955	400	13,377
全学共通キャリア運営センター・言語系科目	22,101	1,230	554	546	133	24,564
学校・社会教育講座	319	413	302	50	13	1,097
合 計	45,649	16,896	11,293	5,236	983	80,057

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）

注3) 学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

6-2 全学集計

表3-1 設問項目別平均値・回答割合／全学①（全科目）

表3-1-1 全学①（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	79,661	4.43	0.71
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	32,250	1.50	2.37
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	79,840	4.45	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	79,568	4.36	0.83
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	79,575	4.40	0.79

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-1-2 全学①（回答割合）

		全有効回答者数	80,057
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	78,729 ^{*1}	98.3%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	40,924	51.1%	
②板書（電子媒体のものを含む）	18,218	22.8%	
③パワーポイント	32,925	41.1%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	17,734	22.2%	
⑤シラバス	5,084	6.4%	
⑥上記にあてはまるものがない	6,750	8.4%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	12,606 ^{*2}	15.7%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	68,000 ^{*1}	84.9%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	9,730	12.2%	
②板書（電子媒体のものを含む）	4,910	6.1%	
③パワーポイント	4,178	5.2%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	2,445	3.1%	
⑤シラバス	1,790	2.2%	
⑥上記にあてはまるものがない	49,698	62.1%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	8,983 ^{*2}	11.2%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	79,425 ^{*1}	99.2%	
①自分にとって新しい考え方・発想	42,746	53.4%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	47,404	59.2%	
③自分で調べ考える姿勢	22,264	27.8%	
④学問的興味	29,751	37.2%	
⑤上記にあてはまるものがない	2,158	2.7%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	4,402 ^{*2}	5.5%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表3-2 設問項目別平均値・回答割合／全学②（全学共通科目・言語系科目を除く）

表3-2-1 全学②（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	55,212	4.37	0.73
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	23,170	1.38	2.28
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	55,351	4.41	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	55,142	4.31	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	55,172	4.37	0.79

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-2-2 全学②（回答割合）

		全有効回答者数	55,493
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	54,661 ^{*1}	98.5%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	31,117	56.1%	
②板書（電子媒体のものを含む）	10,778	19.4%	
③パワーポイント	22,558	40.7%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	13,264	23.9%	
⑤シラバス	3,111	5.6%	
⑥上記にあてはまるものがない	3,933	7.1%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	8,579 ^{*2}	15.5%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	47,052 ^{*1}	84.8%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	7,395	13.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	3,489	6.3%	
③パワーポイント	3,231	5.8%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,724	3.1%	
⑤シラバス	1,258	2.3%	
⑥上記にあてはまるものがない	33,342	60.1%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	6,787 ^{*2}	12.2%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	55,088 ^{*1}	99.3%	
①自分にとって新しい考え方・発想	31,198	56.2%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	34,859	62.8%	
③自分で調べ考える姿勢	13,025	23.5%	
④学問的興味	22,539	40.6%	
⑤上記にあてはまるものがない	1,091	2.0%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	2,757 ^{*2}	5.0%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表4-1 設問項目別平均値（学部等間比較）

全学および学部等別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

学部等	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	スポ	全・総合	全・言語	講座
回答者数	80,057	55,493	7,917	5,903	3,480	4,125	3,245	1,730	2,156	317	4,420	3,900	1,852	1,974	13,377	24,564	1,097
科目数	3,355	1,676	277	188	124	97	64	63	109	25	93	99	64	41	373	1,679	59

注) 下表の平均値は、科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

注) 全学①は全科目、全学②は全学共通科目言語系科目を除く全科目

学部等間比較

(単位：%)

設問項目	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	スポ	全・総合	全・言語	講座
I 学生の学習姿勢																	
I1 この授業に積極的に参加した	4.43	4.37	4.38	4.39	4.33	4.27	4.33	4.35	4.42	4.38	4.34	4.42	4.36	4.41	4.37	4.56	4.41
I2 この授業に関連して、授業外に学習した時間 (平均して、1週間に)	1.50	1.38	1.44	1.38	1.65	1.24	1.67	1.30	1.86	2.25	1.20	1.20	1.16	1.04	1.35	1.81	1.08
II 教員の授業改善に向けて																	
II1 各回の授業内容は明確だった	4.45	4.41	4.43	4.36	4.35	4.39	4.42	4.37	4.48	4.46	4.38	4.46	4.49	4.46	4.41	4.54	4.57
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.36	4.31	4.34	4.23	4.18	4.28	4.32	4.23	4.41	4.38	4.26	4.37	4.38	4.38	4.34	4.47	4.51
III 学生が授業に期待するもの																	
III1 この授業を受けて満足した	4.40	4.37	4.42	4.29	4.25	4.34	4.40	4.32	4.44	4.46	4.35	4.43	4.42	4.45	4.37	4.45	4.55

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表4-2 設問項目別回答割合（学部等間比較）

全学および学部等別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

学部等	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	スポ	全・総合	全・言語	講座
回答者数	80,057	55,493	7,917	5,903	3,480	4,125	3,245	1,730	2,156	317	4,420	3,900	1,852	1,974	13,377	24,564	1,097
科目数	3,355	1,676	277	188	124	97	64	63	109	25	93	99	64	41	373	1,679	59

注）全学①は全科目、全学②は全学共通科目言語系科目を除く全科目

学部等間比較

（単位：％）

設問項目	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	スポ	全・総合	全・言語	講座
II 教員の授業改善に向けて																	
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.3	98.5	98.4	98.1	97.9	98.2	98.7	98.2	98.3	99.4	98.5	98.7	98.5	99.1	98.8	98.0	98.8
①配付資料（授業のレジュメなど）	51.1	56.1	58.8	59.7	63.7	53.3	54.5	57.8	43.5	42.9	52.6	63.3	56.4	47.0	53.6	39.9	67.5
②板書（電子媒体のものを含む）	22.8	19.4	19.9	21.4	35.5	14.0	21.4	17.5	27.1	20.8	17.5	17.2	12.7	19.7	16.6	30.3	16.5
③パワーポイント	41.1	40.7	32.2	32.8	27.8	43.4	38.0	38.2	51.5	69.7	46.3	41.6	44.9	53.5	44.9	42.2	48.0
④動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	22.2	23.9	21.0	8.1	8.8	31.2	15.8	15.7	31.0	36.3	22.4	32.8	36.3	32.3	31.1	18.2	20.9
⑤シラバス	6.4	5.6	5.6	4.5	4.3	4.4	4.7	6.9	13.8	29.7	3.9	4.6	5.0	4.1	6.2	8.0	4.2
⑥上記にあてはまるものがない	8.4	7.1	7.7	9.5	7.3	6.6	9.3	8.0	8.8	5.4	5.5	4.8	5.5	4.2	6.8	11.5	6.3
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	15.7	15.5	14.8	14.2	14.0	12.4	17.7	12.4	19.8	31.2	12.8	12.9	14.1	13.1	18.4	16.4	19.6
II5 この授業で改善すべき点とあった点がありますか【複数選択可】	84.9	84.8	84.6	86.9	84.1	85.1	87.1	87.2	84.3	82.3	84.2	82.6	81.0	84.8	84.9	85.3	82.1
①配付資料（授業のレジュメなど）	12.2	13.3	11.3	17.1	13.9	13.0	15.4	18.8	10.5	13.6	12.2	12.4	8.0	15.1	13.5	9.5	9.0
②板書（電子媒体のものを含む）	6.1	6.3	5.6	8.4	10.2	5.8	8.2	5.8	6.9	5.7	5.0	4.8	3.5	6.0	5.8	5.8	4.3
③パワーポイント	5.2	5.8	4.4	6.8	4.7	5.3	6.6	7.7	7.1	10.7	5.8	4.9	3.6	5.4	6.7	3.9	3.6
④動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.1	3.1	3.0	3.1	2.5	3.7	3.2	5.8	4.3	4.4	3.1	2.5	2.0	4.6	2.8	2.9	1.5
⑤シラバス	2.2	2.3	1.9	2.4	2.3	1.8	2.1	2.9	4.0	7.6	2.0	1.7	1.4	2.5	2.6	2.2	1.5
⑥上記にあてはまるものがない	62.1	60.1	62.9	57.3	56.6	61.2	58.2	55.6	59.8	51.4	61.4	61.3	65.9	56.8	59.9	66.6	65.4
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	11.2	12.2	11.4	12.6	11.8	10.7	15.5	13.5	14.0	21.8	11.9	8.5	10.4	8.2	13.7	8.9	12.0
III 学生が授業に期待するもの																	
III1 この授業から得ることができたものはありませんか【複数選択可】	99.2	99.3	99.4	99.0	99.1	99.2	99.6	99.1	99.5	100.0	99.3	98.8	99.2	99.4	99.3	99.1	99.8
①自分にとって新しい考え方・発想	53.4	56.2	55.0	36.9	40.9	63.1	47.2	42.7	67.2	72.2	57.5	61.9	60.0	52.7	66.7	47.0	60.6
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	59.2	62.8	63.5	67.9	77.6	58.1	69.7	71.2	62.5	63.7	60.9	66.8	70.8	59.2	53.1	51.1	73.7
③自分で調べ考える姿勢	27.8	23.5	26.3	21.1	22.8	19.4	20.0	24.2	42.9	42.9	21.8	22.4	19.3	21.9	22.7	37.6	28.2
④学問的興味	37.2	40.6	46.5	30.3	36.6	40.4	41.1	33.6	48.5	49.8	37.9	38.2	45.9	35.1	44.3	29.4	35.1
⑤上記にあてはまるものがない	2.7	2.0	1.5	3.0	2.4	1.6	2.0	3.4	2.0	2.5	1.7	1.5	1.5	2.2	1.9	4.3	1.1
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	5.5	5.0	5.0	4.8	3.0	3.5	5.5	4.5	9.0	15.8	5.0	3.1	2.9	3.4	6.0	6.7	5.7

注）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-1 授業規模別平均値・回答割合／全学①（全科目）

授業規模は履修者数ではなく、実際の出席者数に近いと思われる回答者数を使用した。

授業規模別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

授業規模	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上	合計
回答者数	47,692	17,267	10,384	4,714	80,057
科目数	3,001	245	87	22	3,355

注) 下表の平均値は、授業規模別の科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

表5-1-1 全学①（平均値）

設 問 項 目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.46	4.37	4.39	4.34
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.62	1.29	1.37	1.35
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.48	4.41	4.40	4.38
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.40	4.31	4.33	4.27
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.43	4.35	4.36	4.35

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表5-1-2 全学①（回答割合）

(単位：%)

設 問 項 目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.2	98.5	98.6	98.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	48.9	56.3	48.0	61.6
②板書（電子媒体のものを含む）	25.9	18.7	18.5	14.9
③パワーポイント	40.3	42.4	43.3	40.1
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	20.9	22.9	26.9	21.2
⑤シラバス	7.5	4.6	4.6	5.2
⑥上記にあてはまるものがない	9.6	6.6	7.4	5.7
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	16.6	14.5	14.2	15.6
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	84.6	84.8	86.1	85.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	11.1	13.4	14.3	13.8
②板書（電子媒体のものを含む）	5.9	6.7	6.7	5.3
③パワーポイント	4.6	6.1	6.5	5.7
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	2.9	3.3	2.9	3.9
⑤シラバス	2.3	2.0	2.0	2.2
⑥上記にあてはまるものがない	63.6	59.6	59.9	60.9
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	11.1	11.5	10.8	12.5
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.2	99.2	99.4	99.3
①自分にとって新しい考え方・発想	52.0	54.0	56.4	58.7
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	59.6	61.0	55.7	56.3
③自分で調べ考える姿勢	33.2	19.7	21.0	18.2
④学問的興味	37.0	37.9	36.3	38.4
⑤上記にあてはまるものがない	2.8	2.5	2.9	2.0
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6.1	4.5	4.6	4.6

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-2 授業規模別平均値・回答割合／全学②（全学共通科目・言語系科目を除く）

授業規模は履修者数ではなく、実際の出席者数に近いと思われる回答者数を使用した。

授業規模別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

授業規模	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上	合計
回答者数	25,994	15,729	9,056	4,714	55,493
科目数	1,352	227	75	22	1,676

注) 下表の平均値は、授業規模別の科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

表5-2-1 全学②（平均値）

設 問 項 目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.38	4.35	4.38	4.34
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.49	1.24	1.28	1.35
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.42	4.41	4.41	4.38
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.32	4.31	4.33	4.27
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.38	4.36	4.38	4.35

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表5-2-2 全学②（回答割合）

(単位：%)

設 問 項 目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.3	98.6	98.8	98.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	56.0	58.3	49.7	61.6
②板書（電子媒体のものを含む）	20.8	18.8	18.7	14.9
③パワーポイント	38.8	42.9	42.3	40.1
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	22.7	23.7	29.1	21.2
⑤シラバス	7.0	4.4	4.1	5.2
⑥上記にあてはまるものがない	8.3	5.7	6.9	5.7
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	15.9	15.0	14.7	15.6
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	84.2	84.8	85.9	85.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	12.6	13.5	14.7	13.8
②板書（電子媒体のものを含む）	6.0	6.8	6.8	5.3
③パワーポイント	5.4	6.1	6.6	5.7
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.1	3.1	2.8	3.9
⑤シラバス	2.7	1.8	2.0	2.2
⑥上記にあてはまるものがない	60.7	59.4	59.2	60.9
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	12.7	12.0	11.2	12.5
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.3	99.2	99.4	99.3
①自分にとって新しい考え方・発想	55.5	55.2	58.8	58.7
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	65.5	63.0	58.0	56.3
③自分で調べ考える姿勢	28.5	18.8	20.1	18.2
④学問的興味	42.0	39.7	39.2	38.4
⑤上記にあてはまるものがない	2.0	1.9	2.0	2.0
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	5.5	4.5	4.3	4.6

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-1 学年別平均値・回答割合／全学①（全科目）

学年別延べ回答者数

学年	1年	2年	3年	4年	合計
回答者数	45,649	16,896	11,293	5,236	79,074

注) 学年は、当該学部で実施したアンケートに回答した学生の学年

表6-1-1 全学①（平均値）

設 問 項 目	1年	2年	3年	4年
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.46	4.38	4.37	4.39
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.62	1.32	1.36	1.35
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.44	4.44	4.47	4.51
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.35	4.34	4.39	4.44
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.38	4.40	4.43	4.50

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表6-1-2 全学①（回答割合）

(単位：%)

設 問 項 目	1年	2年	3年	4年
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.3	98.3	98.4	98.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	46.5	56.1	58.7	59.7
②板書（電子媒体のものを含む）	25.4	19.8	18.2	18.4
③パワーポイント	42.4	39.6	37.6	37.7
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	20.0	24.5	23.2	27.9
⑤シラバス	6.4	5.0	5.3	7.7
⑥上記にあてはまるものがない	9.6	7.4	6.4	6.8
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	16.7	12.7	13.2	18.3
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	85.7	82.9	84.4	85.8
①配付資料（授業のレジュメなど）	12.0	11.7	12.9	12.8
②板書（電子媒体のものを含む）	6.9	4.8	5.5	4.9
③パワーポイント	5.5	4.5	4.7	5.8
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.0	2.5	3.2	3.8
⑤シラバス	2.2	1.8	2.4	2.4
⑥上記にあてはまるものがない	62.5	62.1	60.9	62.4
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	10.8	10.2	11.4	14.1
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.2	99.2	99.2	99.4
①自分にとって新しい考え方・発想	52.2	53.8	54.4	58.0
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	54.8	66.9	63.3	61.6
③自分で調べ考える姿勢	30.6	23.6	22.3	26.3
④学問的興味	33.3	42.0	40.6	45.5
⑤上記にあてはまるものがない	3.5	1.7	1.4	1.6
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6.2	4.1	3.6	5.7

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-2 学年別平均値・回答割合／全学②（全学共通科目・言語系科目を除く）

学年別延べ回答者数

学年	1年	2年	3年	4年	合計
回答者数	23,548	15,666	10,739	4,690	54,643

注) 学年は、当該学部で実施したアンケートに回答した学生の学年

表6-2-1 全学②（平均値）

設 問 項 目	1年	2年	3年	4年
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.38	4.36	4.36	4.37
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.44	1.30	1.33	1.32
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.37	4.42	4.45	4.49
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.26	4.32	4.37	4.41
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.33	4.38	4.42	4.48

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにと思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表6-2-2 全学②（回答割合）

(単位：%)

設 問 項 目	1年	2年	3年	4年
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.6	98.3	98.3	98.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	54.1	56.6	58.9	60.0
②板書（電子媒体のものを含む）	21.3	18.5	17.4	16.8
③パワーポイント	43.2	39.2	36.9	36.9
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	23.3	24.0	22.5	27.2
⑤シラバス	5.3	4.7	4.9	7.1
⑥上記にあてはまるものがない	7.3	7.4	6.4	7.1
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	17.3	12.3	12.8	18.1
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	85.6	83.3	84.4	86.2
①配付資料（授業のレジュメなど）	14.2	12.1	13.2	13.3
②板書（電子媒体のものを含む）	7.8	4.9	5.6	4.8
③パワーポイント	7.0	4.6	4.8	5.8
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.1	2.5	3.3	3.9
⑤シラバス	2.2	1.9	2.4	2.3
⑥上記にあてはまるものがない	58.5	61.9	60.6	62.2
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	12.6	10.4	11.5	14.6
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.3	99.2	99.2	99.3
①自分にとって新しい考え方・発想	57.4	54.4	54.6	58.2
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	60.0	66.8	63.2	60.9
③自分で調べ考える姿勢	24.1	22.6	21.4	24.8
④学問的興味	39.3	41.5	40.1	44.5
⑤上記にあてはまるものがない	2.4	1.8	1.3	1.7
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	5.7	3.9	3.5	5.8

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

6-3 学部等別設問項目別平均値・回答割合

表7-1 文学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	7,866	4.38	0.70
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	3,392	1.44	2.21
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	7,893	4.43	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	7,865	4.34	0.83
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	7,884	4.42	0.76

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表7-2 文学部（回答割合）

		全有効回答者数	7,917
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	7,793 ^{*1}	98.4%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	4,655	58.8%	
②板書（電子媒体のものを含む）	1,578	19.9%	
③パワーポイント	2,547	32.2%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,659	21.0%	
⑤シラバス	447	5.6%	
⑥上記にあてはまるものがない	610	7.7%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	1,168 ^{*2}	14.8%	
II5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】	6,701 ^{*1}	84.6%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	898	11.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	447	5.6%	
③パワーポイント	349	4.4%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	235	3.0%	
⑤シラバス	149	1.9%	
⑥上記にあてはまるものがない	4,981	62.9%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	903 ^{*2}	11.4%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	7,872 ^{*1}	99.4%	
①自分にとって新しい考え方・発想	4,355	55.0%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	5,027	63.5%	
③自分で調べ考える姿勢	2,085	26.3%	
④学問的興味	3,681	46.5%	
⑤上記にあてはまるものがない	118	1.5%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	395 ^{*2}	5.0%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表8-1 経済学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	5,882	4.39	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	2,362	1.38	2.13
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	5,893	4.36	0.80
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	5,876	4.23	0.93
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	5,871	4.29	0.87
IV 学部等による設問			
IV1（基礎ゼミナール1）経済関連の文献を読む力がついた	345	4.03	0.92
IV2（基礎ゼミナール1）レジュメやレポート作成の力がついた	346	4.28	0.86
IV3（データ分析入門1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた	248	4.45	0.68
IV4（データ分析入門1）Power Pointでプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	247	4.25	0.78
IV5（データ分析入門1）WEB上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	250	4.32	0.75

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表8-2 経済学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	5,903
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	5,792 ^{*1}	98.1%
①配付資料（授業のレジュメなど）	3,526	59.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,266	21.4%
③パワーポイント	1,937	32.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	476	8.1%
⑤シラバス	264	4.5%
⑥上記にあてはまるものがない	559	9.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	836 ^{*2}	14.2%
II5 この授業で改善すべき点だと思いますか【複数選択可】	5,129 ^{*1}	86.9%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,011	17.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	493	8.4%
③パワーポイント	404	6.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	184	3.1%
⑤シラバス	141	2.4%
⑥上記にあてはまるものがない	3,382	57.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	746 ^{*2}	12.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	5,846 ^{*1}	99.0%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,180	36.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	4,008	67.9%
③自分で調べ考える姿勢	1,246	21.1%
④学問的興味	1,786	30.3%
⑤上記にあてはまるものがない	176	3.0%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	284 ^{*2}	4.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表9-1 理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,458	4.33	0.78
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,689	1.65	2.21
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,471	4.35	0.76
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,461	4.18	0.92
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,460	4.25	0.83
IV 学部等による設問			
IV1 シラバスに沿って授業が行われた	3,469	4.49	0.64
IV2 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	3,462	4.37	0.76
IV3（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	2,417	4.23	0.96
IV4（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	1,583	4.05	0.90

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表9-2 理学部（回答割合）

		全有効回答者数	3,480
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,407 ^{*1}	97.9%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,216	63.7%	
②板書（電子媒体のものを含む）	1,235	35.5%	
③パワーポイント	966	27.8%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	306	8.8%	
⑤シラバス	148	4.3%	
⑥上記にあてはまるものがない	255	7.3%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	487 ^{*2}	14.0%	
II5 この授業で改善すべき点だと思いますか【複数選択可】	2,926 ^{*1}	84.1%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	482	13.9%	
②板書（電子媒体のものを含む）	356	10.2%	
③パワーポイント	163	4.7%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	87	2.5%	
⑤シラバス	79	2.3%	
⑥上記にあてはまるものがない	1,971	56.6%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	410 ^{*2}	11.8%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,449 ^{*1}	99.1%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1,424	40.9%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,702	77.6%	
③自分で調べ考える姿勢	795	22.8%	
④学問的興味	1,273	36.6%	
⑤上記にあてはまるものがない	83	2.4%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	106 ^{*2}	3.0%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表10-1 社会学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	4,104	4.27	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,740	1.24	2.24
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	4,114	4.39	0.73
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4,097	4.28	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	4,109	4.34	0.79

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表10-2 社会学部（回答割合）

		全有効回答者数	4,125
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	4,051 ^{*1}	98.2%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,199	53.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	577	14.0%	
③パワーポイント	1,792	43.4%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,289	31.2%	
⑤シラバス	183	4.4%	
⑥上記にあてはまるものがない	272	6.6%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	512 ^{*2}	12.4%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,510 ^{*1}	85.1%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	538	13.0%	
②板書（電子媒体のものを含む）	241	5.8%	
③パワーポイント	220	5.3%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	151	3.7%	
⑤シラバス	74	1.8%	
⑥上記にあてはまるものがない	2,526	61.2%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	443 ^{*2}	10.7%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	4,092 ^{*1}	99.2%	
①自分にとって新しい考え方・発想	2,601	63.1%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,395	58.1%	
③自分で調べ考える姿勢	799	19.4%	
④学問的興味	1,666	40.4%	
⑤上記にあてはまるものがない	68	1.6%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	143 ^{*2}	3.5%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表11-1 法学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,229	4.33	0.80
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,296	1.67	2.46
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,236	4.42	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,225	4.32	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,231	4.40	0.77

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表11-2 法学部（回答割合）

		全有効回答者数	3,245
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,202 ^{*1}	98.7%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,770	54.5%	
②板書（電子媒体のものを含む）	696	21.4%	
③パワーポイント	1,232	38.0%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	513	15.8%	
⑤シラバス	151	4.7%	
⑥上記にあてはまるものがない	303	9.3%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	574 ^{*2}	17.7%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	2,827 ^{*1}	87.1%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	499	15.4%	
②板書（電子媒体のものを含む）	266	8.2%	
③パワーポイント	215	6.6%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	103	3.2%	
⑤シラバス	67	2.1%	
⑥上記にあてはまるものがない	1,888	58.2%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	502 ^{*2}	15.5%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,231 ^{*1}	99.6%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1,533	47.2%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,262	69.7%	
③自分で調べ考える姿勢	649	20.0%	
④学問的興味	1,333	41.1%	
⑤上記にあてはまるものがない	64	2.0%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	177 ^{*2}	5.5%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表12-1 経営学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,716	4.35	0.79
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	886	1.30	1.83
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,724	4.37	0.82
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,719	4.23	0.96
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,724	4.32	0.86

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表12-2 経営学部（回答割合）

		全有効回答者数	1,730
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,699 ^{*1}	98.2%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,000	57.8%	
②板書（電子媒体のものを含む）	302	17.5%	
③パワーポイント	660	38.2%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	271	15.7%	
⑤シラバス	120	6.9%	
⑥上記にあてはまるものがない	138	8.0%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	214 ^{*2}	12.4%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,509 ^{*1}	87.2%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	325	18.8%	
②板書（電子媒体のものを含む）	101	5.8%	
③パワーポイント	133	7.7%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	100	5.8%	
⑤シラバス	50	2.9%	
⑥上記にあてはまるものがない	962	55.6%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	233 ^{*2}	13.5%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,715 ^{*1}	99.1%	
①自分にとって新しい考え方・発想	739	42.7%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,231	71.2%	
③自分で調べ考える姿勢	418	24.2%	
④学問的興味	582	33.6%	
⑤上記にあてはまるものがない	59	3.4%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	78 ^{*2}	4.5%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表13-1 異文化コミュニケーション学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,136	4.42	0.72
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	912	1.86	2.07
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,152	4.48	0.71
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,146	4.41	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,153	4.44	0.78

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表13-2 異文化コミュニケーション学部（回答割合）

		全有効回答者数	2,156
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,119 ^{*1}	98.3%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	938	43.5%	
②板書（電子媒体のものを含む）	584	27.1%	
③パワーポイント	1,111	51.5%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	669	31.0%	
⑤シラバス	298	13.8%	
⑥上記にあてはまるものがない	190	8.8%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	426 ^{*2}	19.8%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,818 ^{*1}	84.3%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	227	10.5%	
②板書（電子媒体のものを含む）	149	6.9%	
③パワーポイント	154	7.1%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	93	4.3%	
⑤シラバス	86	4.0%	
⑥上記にあてはまるものがない	1,290	59.8%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	301 ^{*2}	14.0%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,145 ^{*1}	99.5%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1,449	67.2%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,348	62.5%	
③自分で調べ考える姿勢	926	42.9%	
④学問的興味	1,046	48.5%	
⑤上記にあてはまるものがない	43	2.0%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	193 ^{*2}	9.0%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表14-1 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	309	4.38	0.71
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	190	2.25	1.74
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	316	4.46	0.77
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	313	4.38	0.83
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	315	4.46	0.77

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表14-2 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	317
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	315 ^{*1}	99.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	136	42.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	66	20.8%
③パワーポイント	221	69.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	115	36.3%
⑤シラバス	94	29.7%
⑥上記にあてはまるものがない	17	5.4%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	99 ^{*2}	31.2%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	261 ^{*1}	82.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	43	13.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	18	5.7%
③パワーポイント	34	10.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	14	4.4%
⑤シラバス	24	7.6%
⑥上記にあてはまるものがない	163	51.4%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	69 ^{*2}	21.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	317 ^{*1}	100.0%
①自分にとって新しい考え方・発想	229	72.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	202	63.7%
③自分で調べ考える姿勢	136	42.9%
④学問的興味	158	49.8%
⑤上記にあてはまるものがない	8	2.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	50 ^{*2}	15.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表15-1 観光学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	4,407	4.34	0.72
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,723	1.20	2.15
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	4,410	4.38	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4,397	4.26	0.85
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	4,401	4.35	0.79

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表15-2 観光学部（回答割合）

		全有効回答者数	4,420
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	4,352 ^{*1}	98.5%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,325	52.6%	
②板書（電子媒体のものを含む）	773	17.5%	
③パワーポイント	2,046	46.3%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	990	22.4%	
⑤シラバス	173	3.9%	
⑥上記にあてはまるものがない	244	5.5%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	567 ^{*2}	12.8%	
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,723 ^{*1}	84.2%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	538	12.2%	
②板書（電子媒体のものを含む）	222	5.0%	
③パワーポイント	256	5.8%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	138	3.1%	
⑤シラバス	88	2.0%	
⑥上記にあてはまるものがない	2,714	61.4%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	527 ^{*2}	11.9%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	4,387 ^{*1}	99.3%	
①自分にとって新しい考え方・発想	2,540	57.5%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,690	60.9%	
③自分で調べ考える姿勢	965	21.8%	
④学問的興味	1,674	37.9%	
⑤上記にあてはまるものがない	76	1.7%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	222 ^{*2}	5.0%	

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表16-1 コミュニティ福祉学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,883	4.42	0.66
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,289	1.20	2.33
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,894	4.46	0.69
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,871	4.37	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,872	4.43	0.73

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表16-2 コミュニティ福祉学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数 回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,850 ^{*1}	98.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,468	63.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	670	17.2%
③パワーポイント	1,624	41.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,278	32.8%
⑤シラバス	180	4.6%
⑥上記にあてはまるものがない	188	4.8%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	502 ^{*2}	12.9%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,222 ^{*1}	82.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	484	12.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	186	4.8%
③パワーポイント	193	4.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	99	2.5%
⑤シラバス	65	1.7%
⑥上記にあてはまるものがない	2,389	61.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	332 ^{*2}	8.5%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,855 ^{*1}	98.8%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,413	61.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,605	66.8%
③自分で調べ考える姿勢	874	22.4%
④学問的興味	1,488	38.2%
⑤上記にあてはまるものがない	60	1.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	121 ^{*2}	3.1%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表17-1 現代心理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,844	4.36	0.68
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	827	1.16	1.81
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,847	4.49	0.67
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,843	4.38	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,840	4.42	0.71
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の受講者数は適切だった	1,848	4.34	0.75
IV2 この授業の設備・環境に満足している	1,845	4.40	0.76

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにと思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表17-2 現代心理学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数 回答者数 ^{注1)}	1,852 割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,824 ^{*1}	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,044	56.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	235	12.7%
③パワーポイント	831	44.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	673	36.3%
⑤シラバス	93	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	102	5.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	262 ^{*2}	14.1%
II5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】	1,500 ^{*1}	81.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	149	8.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	64	3.5%
③パワーポイント	66	3.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	37	2.0%
⑤シラバス	26	1.4%
⑥上記にあてはまるものがない	1,221	65.9%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	192 ^{*2}	10.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,837 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,112	60.0%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,311	70.8%
③自分で調べ考える姿勢	358	19.3%
④学問的興味	850	45.9%
⑤上記にあてはまるものがない	28	1.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	53 ^{*2}	2.9%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表18-1 スポーツウエルネス学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,967	4.41	0.69
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	710	1.04	1.88
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,966	4.46	0.71
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,950	4.38	0.80
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,964	4.45	0.74

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表18-2 スポーツウエルネス学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,974
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,957 ^{*1}	99.1%
①配付資料（授業のレジュメなど）	928	47.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	389	19.7%
③パワーポイント	1,057	53.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	637	32.3%
⑤シラバス	81	4.1%
⑥上記にあてはまるものがない	82	4.2%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	258 ^{*2}	13.1%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,673 ^{*1}	84.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	298	15.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	119	6.0%
③パワーポイント	107	5.4%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	91	4.6%
⑤シラバス	50	2.5%
⑥上記にあてはまるものがない	1,121	56.8%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	162 ^{*2}	8.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,963 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,041	52.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,168	59.2%
③自分で調べ考える姿勢	432	21.9%
④学問的興味	693	35.1%
⑤上記にあてはまるものがない	43	2.2%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	67 ^{*2}	3.4%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表19-1 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	13,315	4.37	0.73
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	5,636	1.35	2.58
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	13,340	4.41	0.75
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	13,291	4.34	0.83
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	13,255	4.37	0.80
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の教室の大きさは適切だった	13,264	4.27	0.93
IV2 この授業の受講者数は適切だった	13,264	4.29	0.82
IV3 この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く）	13,276	4.36	0.80
IV4 【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	5,012	4.36	0.82
IV5 【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	5,007	4.23	0.85
IV6 【F科目のみ対象】この授業を通して英語で学ぶことに対する意欲が向上した	618	4.17	0.93

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表19-2 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（回答割合）

全有効回答者数 13,377

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	13,216 ^{*1}	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	7,172	53.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	2,226	16.6%
③パワーポイント	6,007	44.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,159	31.1%
⑤シラバス	833	6.2%
⑥上記にあてはまるものがない	904	6.8%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,459 ^{*2}	18.4%
II5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】	11,352 ^{*1}	84.9%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,804	13.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	780	5.8%
③パワーポイント	898	6.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	376	2.8%
⑤シラバス	342	2.6%
⑥上記にあてはまるものがない	8,017	59.9%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,835 ^{*2}	13.7%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	13,284 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	8,917	66.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	7,101	53.1%
③自分で調べ考える姿勢	3,033	22.7%
④学問的興味	5,924	44.3%
⑤上記にあてはまるものがない	253	1.9%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	805 ^{*2}	6.0%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表20-1 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	24,449	4.56	0.63
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	9,080	1.81	2.58
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	24,489	4.54	0.71
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	24,426	4.47	0.80
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	24,403	4.45	0.80
IV 学部等による設問			
IV1 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った	24,470	4.40	0.78
IV2 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	24,444	4.41	0.81
IV3 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	24,410	4.40	0.79
IV5 その言語圏の社会や文化についての知見を得られた	24,415	4.14	0.94
IV6 その言語の学習を継続したいと思うようになった	24,485	4.25	0.90

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表20-2 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数 回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	24,068 ^{*1}	98.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	9,807	39.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	7,440	30.3%
③パワーポイント	10,367	42.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,470	18.2%
⑤シラバス	1,973	8.0%
⑥上記にあてはまるものがない	2,817	11.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	4,027 ^{*2}	16.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	20,948 ^{*1}	85.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,335	9.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,421	5.8%
③パワーポイント	947	3.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	721	2.9%
⑤シラバス	532	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	16,356	66.6%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	2,196 ^{*2}	8.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	24,337 ^{*1}	99.1%
①自分にとって新しい考え方・発想	11,548	47.0%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	12,545	51.1%
③自分で調べ考える姿勢	9,239	37.6%
④学問的興味	7,212	29.4%
⑤上記にあてはまるものがない	1,067	4.3%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	1,645 ^{*2}	6.7%
IV 学部等による設問		
IV4 この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	24,335 ^{*1}	99.1%
①読む力	12,707	51.7%
②書く力	12,097	49.2%
③聞く力	10,161	41.4%
④話す力	13,325	54.2%
⑤プレゼンテーションをする力	4,148	16.9%
⑥ディスカッションをする力	5,552	22.6%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表21-1 学校・社会教育講座（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,096	4.41	0.68
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	518	1.08	1.92
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,095	4.57	0.62
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,088	4.51	0.68
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,093	4.55	0.66

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表21-2 学校・社会教育講座（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,097
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,084 ^{*1}	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	740	67.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	181	16.5%
③パワーポイント	527	48.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	229	20.9%
⑤シラバス	46	4.2%
⑥上記にあてはまるものがない	69	6.3%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	215 ^{*2}	19.6%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	901 ^{*1}	82.1%
①配付資料（授業のレジュメなど）	99	9.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	47	4.3%
③パワーポイント	39	3.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	16	1.5%
⑤シラバス	17	1.5%
⑥上記にあてはまるものがない	717	65.4%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	132 ^{*2}	12.0%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,095 ^{*1}	99.8%
①自分にとって新しい考え方・発想	665	60.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	809	73.7%
③自分で調べ考える姿勢	309	28.2%
④学問的興味	385	35.1%
⑤上記にあてはまるものがない	12	1.1%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	63 ^{*2}	5.7%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2025 年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2026 年 9 月発行

編集 立教大学 大学教育開発・支援センター

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

TEL 03-3985-4624 FAX 03-3985-4615

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

e-mail cdshe@rikkyo.ac.jp

